

## 第2章 飯島町の現況と課題

### 2-1 飯島町の現況

#### 2-1-1 位置・地勢

飯島町は長野県上伊那郡のほぼ中央に位置し、その大部分は天竜川右岸にあります。中央アルプス南駒ヶ岳を背に、東方に傾斜した地帯であり、天竜川、与田切川、中田切川などによって段丘が発達した地形となっています。西側の山岳地域には南駒ヶ岳、空木岳、越百山などの3,000m級の山々が高くそびえ、連なっています。

中央アルプスと天竜川に挟まれた平坦な地域は、中田切川や与田切川などによって形成された扇状地性堆積物に覆われ、天竜川に向かって緩やかに傾斜した幅広い平坦地をつくり出しています。また、天竜川の東側は河川の浸食が進んだ山地となっており、山麓の斜面にはひな壇状に開けた日曾利地区の集落があります。

町の西側は中央アルプスを経て木曾郡大桑村に接し、東側は中川村、南側は飯田市及び下伊那郡松川町、北側は中田切川を境に駒ヶ根市に隣接しています。

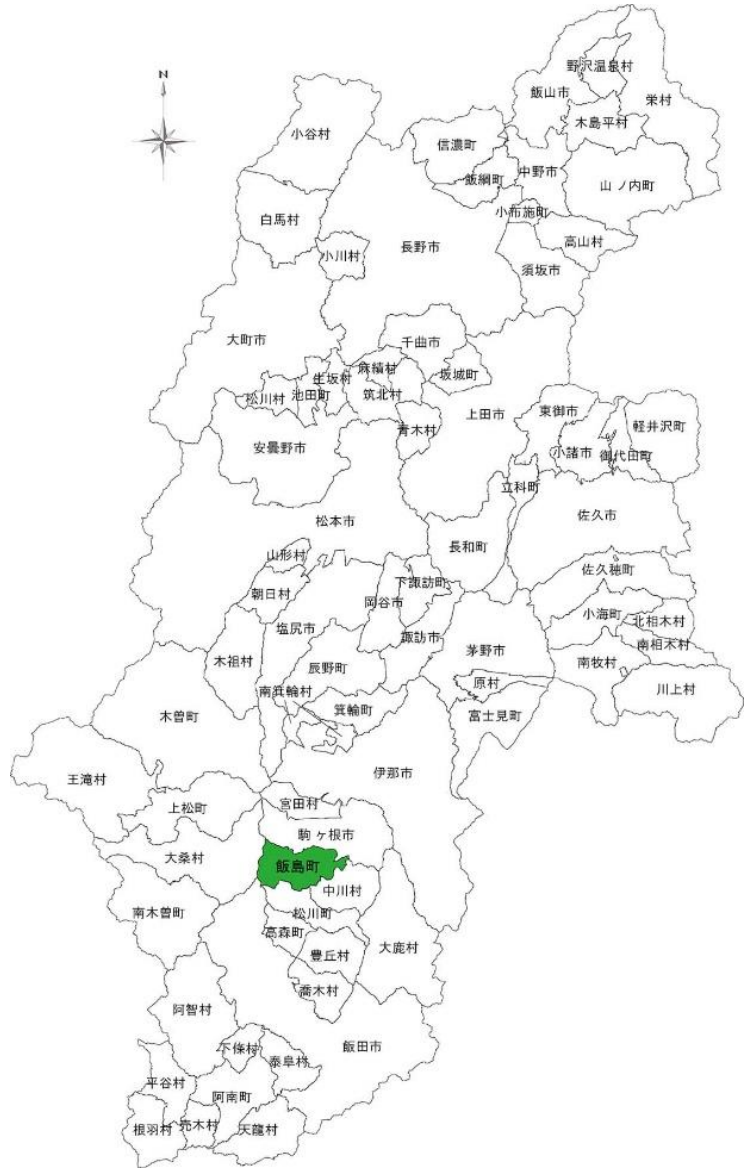
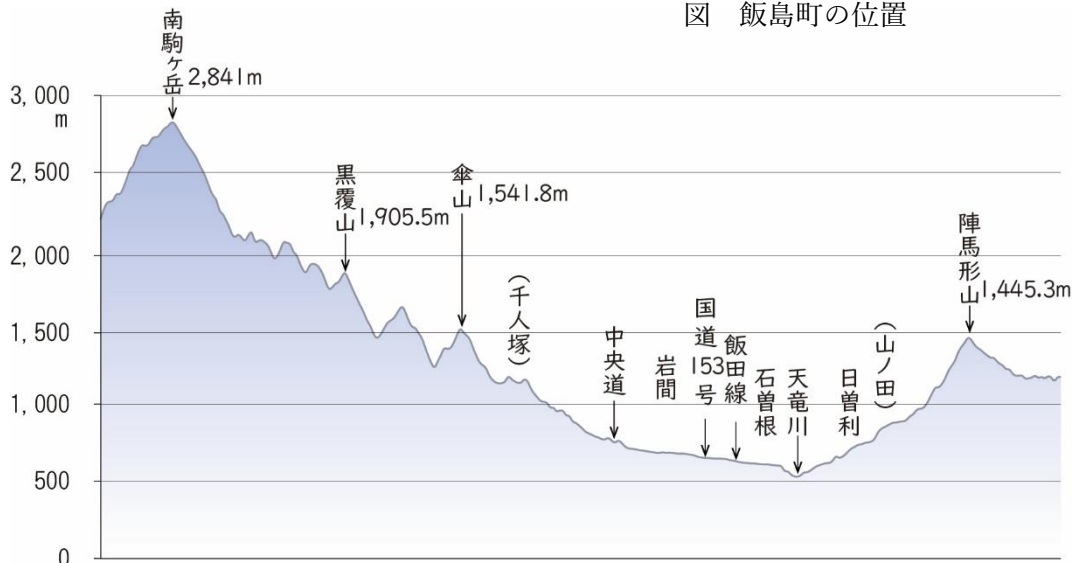


図 飯島町の位置



※ 断面図は、相対的なイメージがとりやすいよう高さを2倍に強調しています。

図 地形断面図

## 2-1-2 沿革

飯島町は江戸時代に幕府の陣屋が置かれていた歴史の街です。

飯島陣屋は江戸時代初め、延宝5（1677）年に設置されたといわれており、伊那郡を中心とする幕府直轄領（天領）を支配する拠点として置かれました。それ以来幕末にいたるまで続き、明治維新以後は伊那県庁として使われていました。

伊那県は、明治4（1871）年11月に廃止されましたが、飯島町は江戸時代から明治初期に至る200年近い間、信濃の国や伊那県の政治上重要な役割を果たしていました。

表 飯島町の沿革

原始・古代	各地に集落ができる。
鎌倉時代	飯島氏の支配のもとに飯島郷の開発が進む。
江戸時代	幕府の直轄地を支配した飯島陣屋が置かれる。 この地方の政治・経済・文化の中心地として栄える。
明治8年1月23日	飯島村、石曾根村、田切村、本郷村の4か村が合併して飯島村となる。 一方、七久保耕地は同日、小平・前沢・田島・上片桐・片桐の5耕地とともに1村扱いを廃止し、合併して片桐村となる。
明治14年8月17日	片桐村は、上片桐村・片桐村・七久保村の3か村に分離し七久保村が発足する。
明治15年4月5日	飯島村から田切及び本郷が分離し、飯島村・田切村・本郷村の3か村となる。
明治22年4月1日	市町村制の施行に際し、飯島村・田切村・本郷村の3か村が合併して「飯島村」となる。「七久保村」はそのまま新村として発足する。
昭和24年4月1日	飯島村は南向村の一部日曾利を境界変更により編入する。
昭和28年2月1日	七久保村は字三林、字袴ヶ腰、字烏帽子ヶ丘の一部面積14.5平方キロメートルを境界変更により隣村上片桐村へ編入する。
昭和29年1月1日	飯島村は町制を施行し「飯島町」となる。
昭和31年9月30日	飯島町と七久保村が合併し、新「飯島町」となり現在に至る。

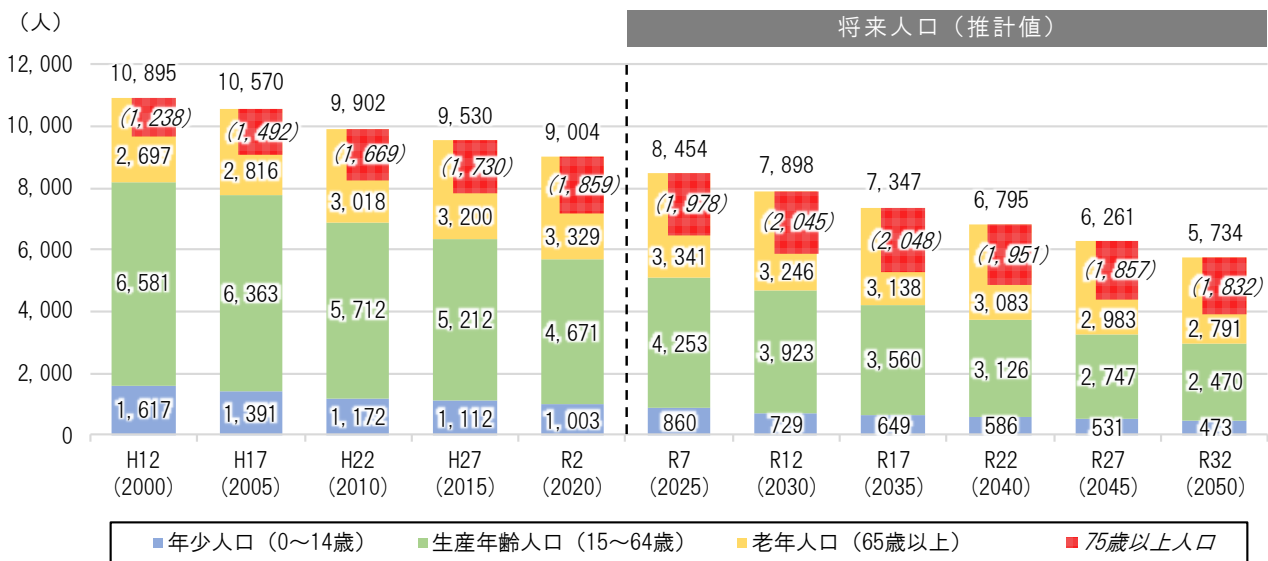
資料：飯島町 HP（町の歴史と歩み）

## 2-1-3 人口

### ① 人口の推移

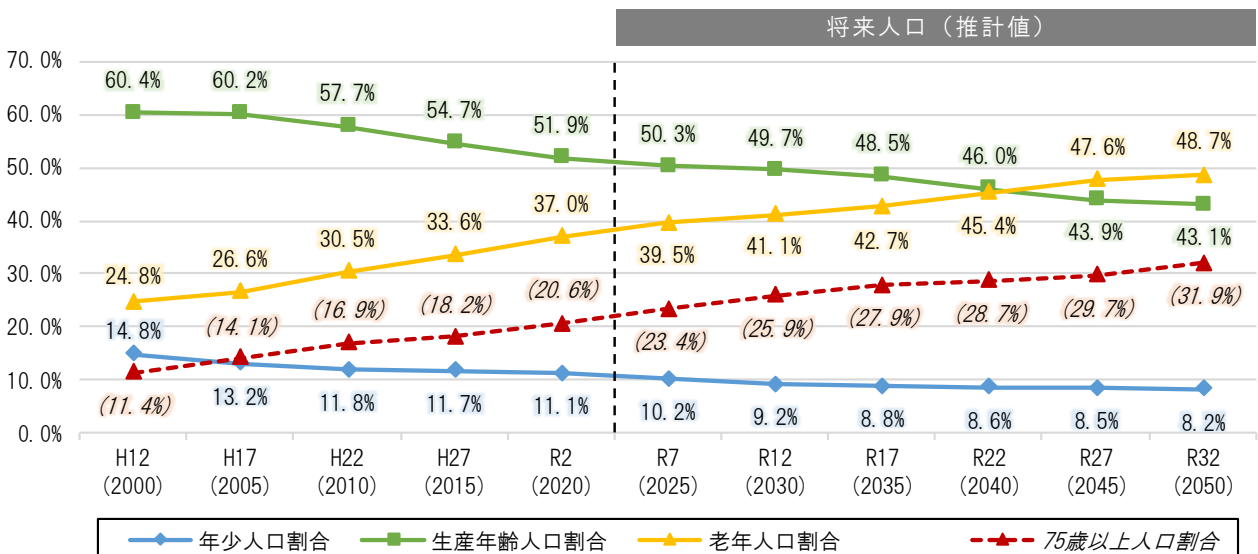
平成 12 (2000) 年以降の本町の人口の推移を見ると、平成 12 (2000) 年には 10,895 人でしたが、令和 2 (2020) 年には 9,004 人まで減少しています。将来の推計では、令和 32 (2050) 年には 5,700 人程度まで減少すると推測されています。

令和 2 (2020) 年までの年齢 3 区分別人口の推移を見ると、年少人口 (0~14 歳人口) と生産年齢人口 (15~64 歳人口) は一貫して減少しており、少子化や労働力人口の縮小が進んでいます。一方、老年人口 (65 歳以上人口) や 75 歳以上人口は増加を続けており、高齢化が顕著です。将来の推計では、令和 27 (2045) 年には年少人口は 531 人 (8.5%)、生産年齢人口は 2,747 人 (43.9%)、老年人口割合は 2,983 人 (47.6%) となり、老年人口が生産年齢人口を上回ると推測されています。また、令和 32 (2050) 年には 75 歳以上人口割合が 30% を超えると想定されています。



※平成 27 (2015) 年及び令和 2 (2020) 年の総人口は年齢不詳を含む。  
資料：国勢調査(H12~R2)、国立社会保障・人口問題研究所「将来の地域別男女階級別人口(令和 5 年推計)」

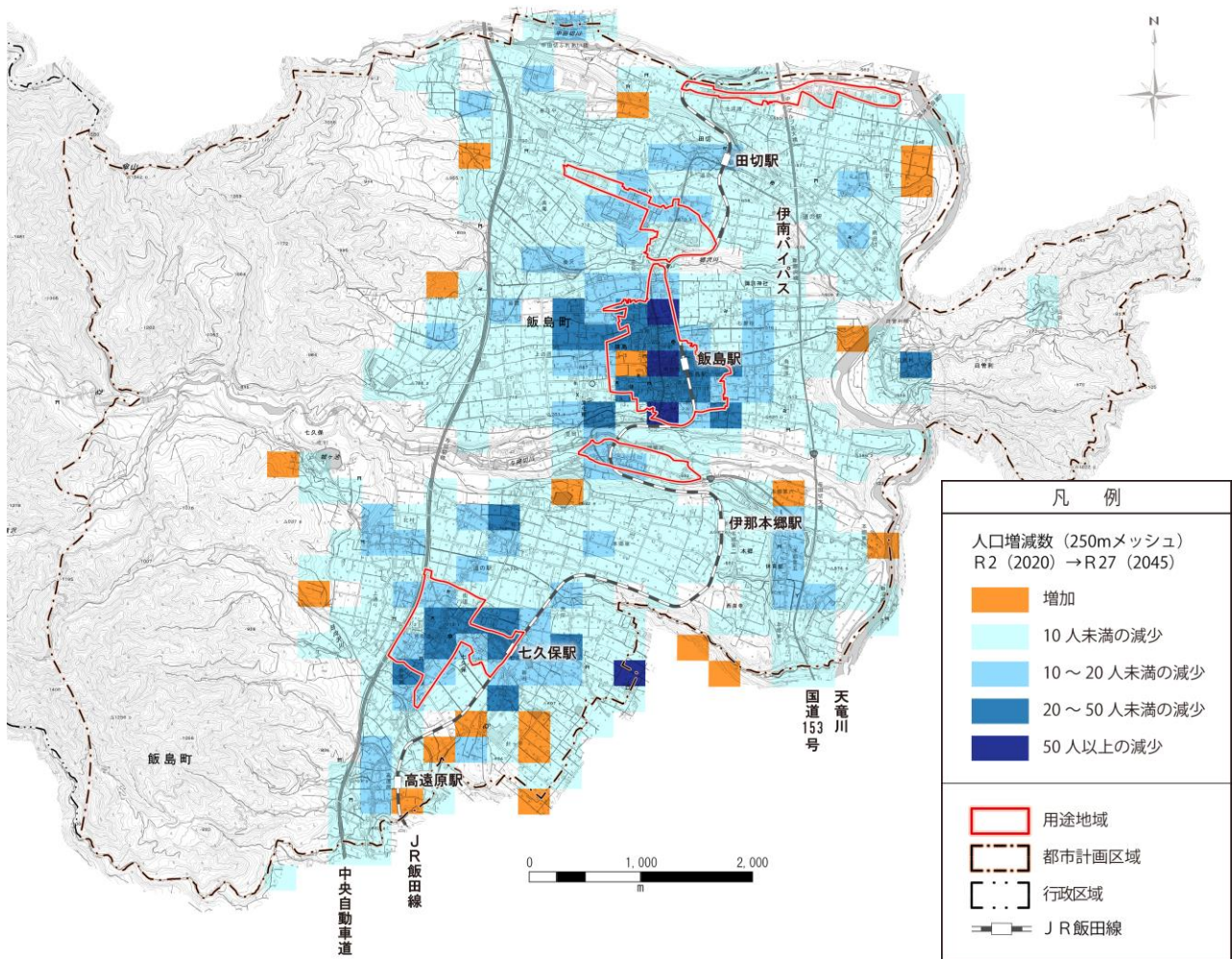
図 年齢 3 区分別人口の推移と将来推計



資料：国勢調査(H12~R2)、国立社会保障・人口問題研究所「将来の地域別男女階級別人口(令和 5 年推計)」

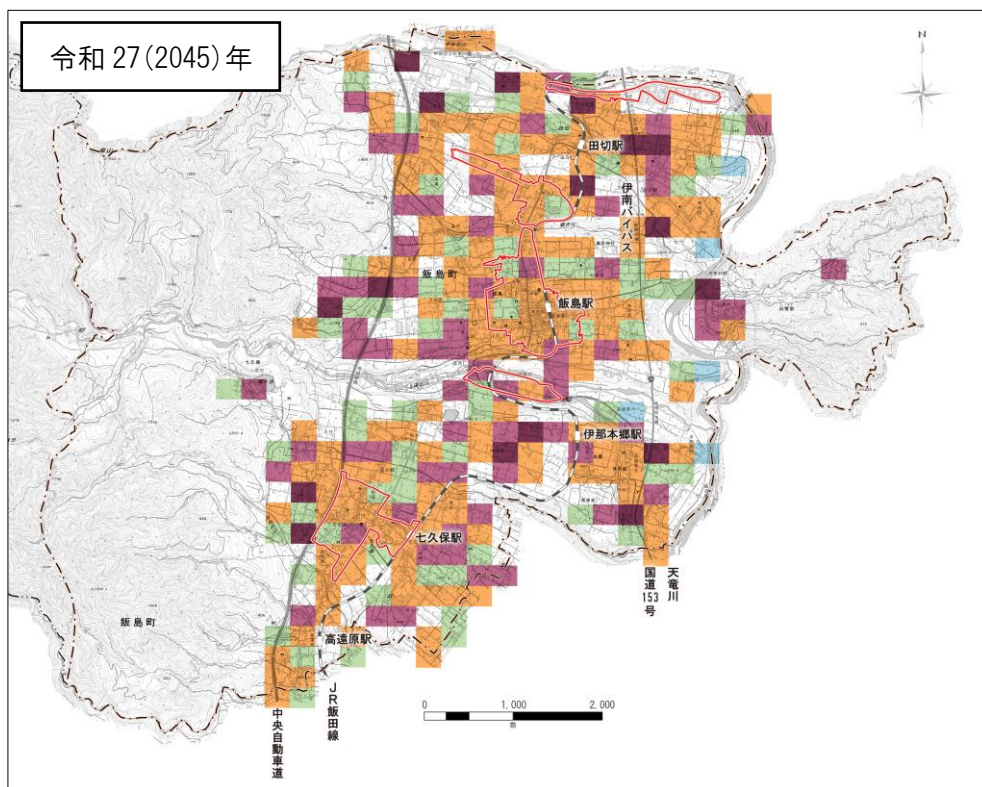
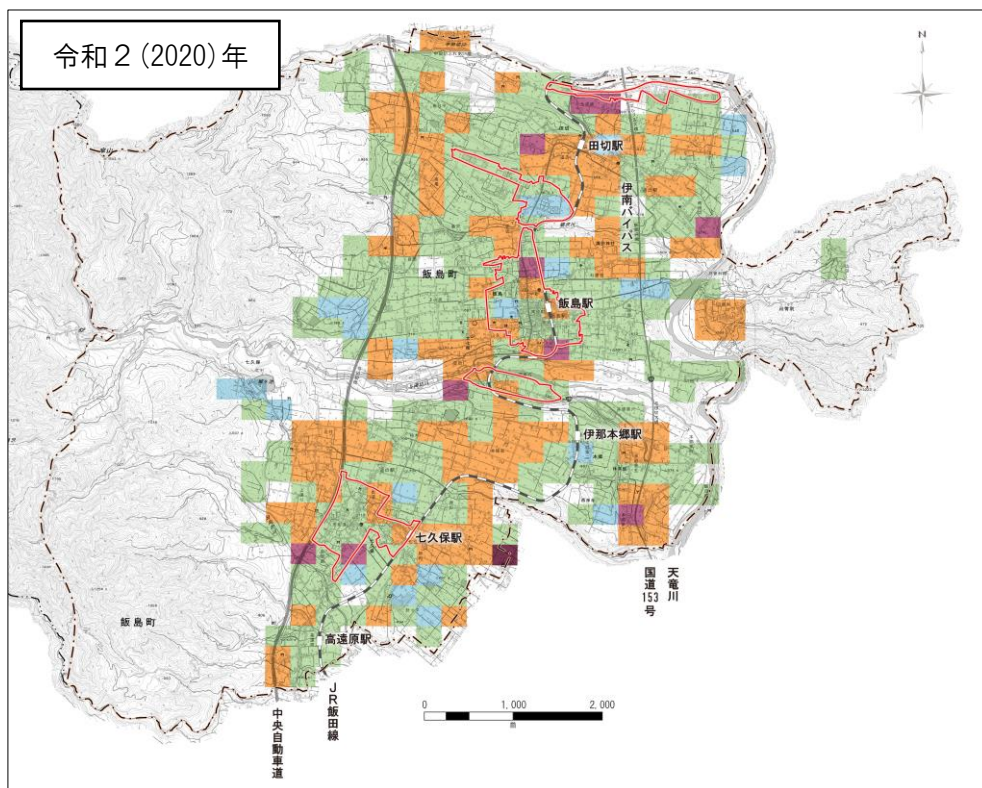
図 年齢 3 区分別人口構成比の推移と将来推計

令和2（2020）年から令和27（2045）年の人口増減数を見ると、町全体で人口減少が進行すると推測されています。特に、JR飯島駅西側やJR七久保駅西側の用途地域内での減少数が多くなっています。人口増加が予測されているエリアもありますが、その多くは用途地域外となっています。



資料：【令和2（2020）年】令和2年国勢調査「地域メッシュ統計（250mメッシュ）  
 【令和27（2045）年】国土数値情報「250mメッシュ別将来推計人口（R6国政局推計）」  
 図 人口増減数の推移（令和2（2020）年 → 令和27（2045）年）

老年人口（65歳以上人口）割合の推移を見ると、令和2（2020）年は20～60%未満のエリアが多くなっていますが、令和27（2045）年には40～80%未満のエリアが増加すると推測されています。また、老年人口割合が80%以上になると推測されているエリアも大幅に増加する見通しとなっています。



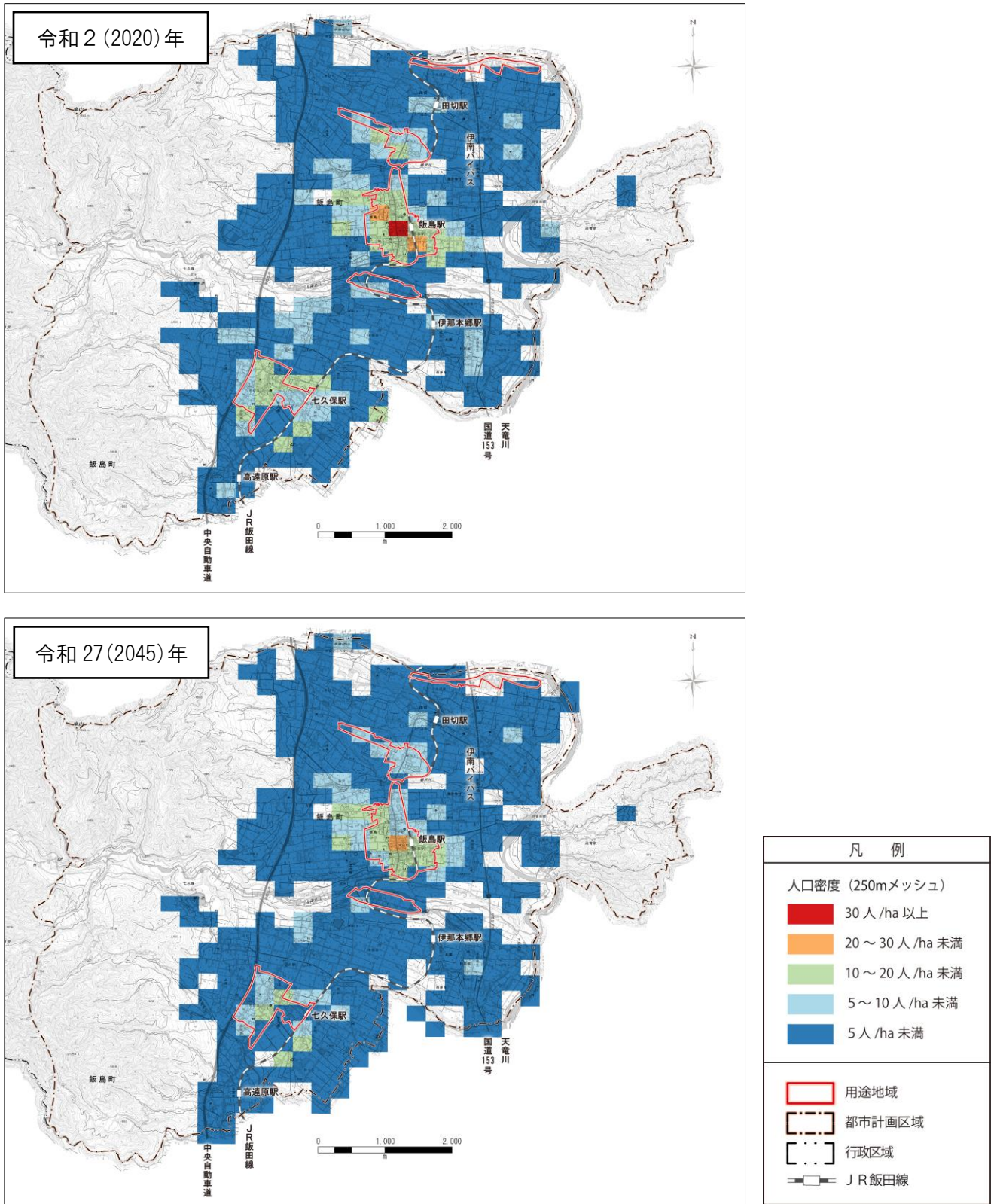
資料：【令和2（2020）年】令和2年国勢調査「地域メッシュ統計（250mメッシュ）

【令和27（2045）年】国土数値情報「250mメッシュ別将来推計人口（R6国政局推計）」

図 老年人口（65歳以上人口）割合の推移（令和2（2020）年 → 令和27（2045）年）

## ② 人口密度の推移

令和2（2020）年と令和27（2045）年の250mメッシュ別の人口密度を見ると、JR飯島駅周辺やJR七久保駅周辺などの駅周辺や用途地域内などにおいて、人口密度が減少すると推測されています。



資料：【令和2（2020）年】令和2年国勢調査「地域メッシュ統計（250mメッシュ）」

【令和27（2045）年】国土数値情報「250mメッシュ別将来推計人口（R6国政局推計）」

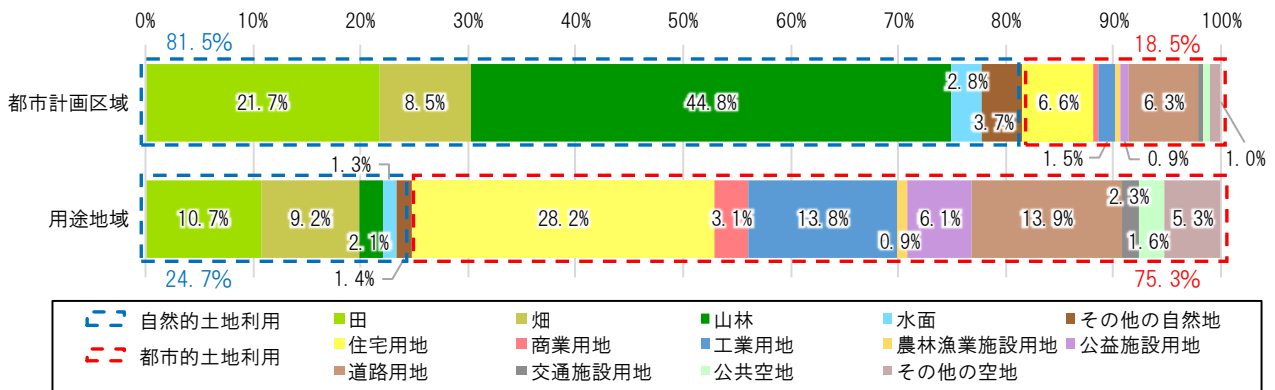
図 人口密度の推移（令和2（2020）年 → 令和27（2045）年）

## 2-1-4 土地利用

### ① 土地利用現況

本町の土地利用現況を見ると、都市計画区域内（4,608ha）のうち、農地（田・畑）や山林などの自然的土地利用は全体の81.5%を占めています。

また、用途地域内では、都市的土地利用が全体の75.3%を占め、そのうち宅地（住宅用地・商業用地・工業用地）は45.1%となっています。自然的土地利用は24.7%であり、そのうち農地が19.9%残存しています。



資料：都市計画基礎調査（R7）

図 土地利用の構成比

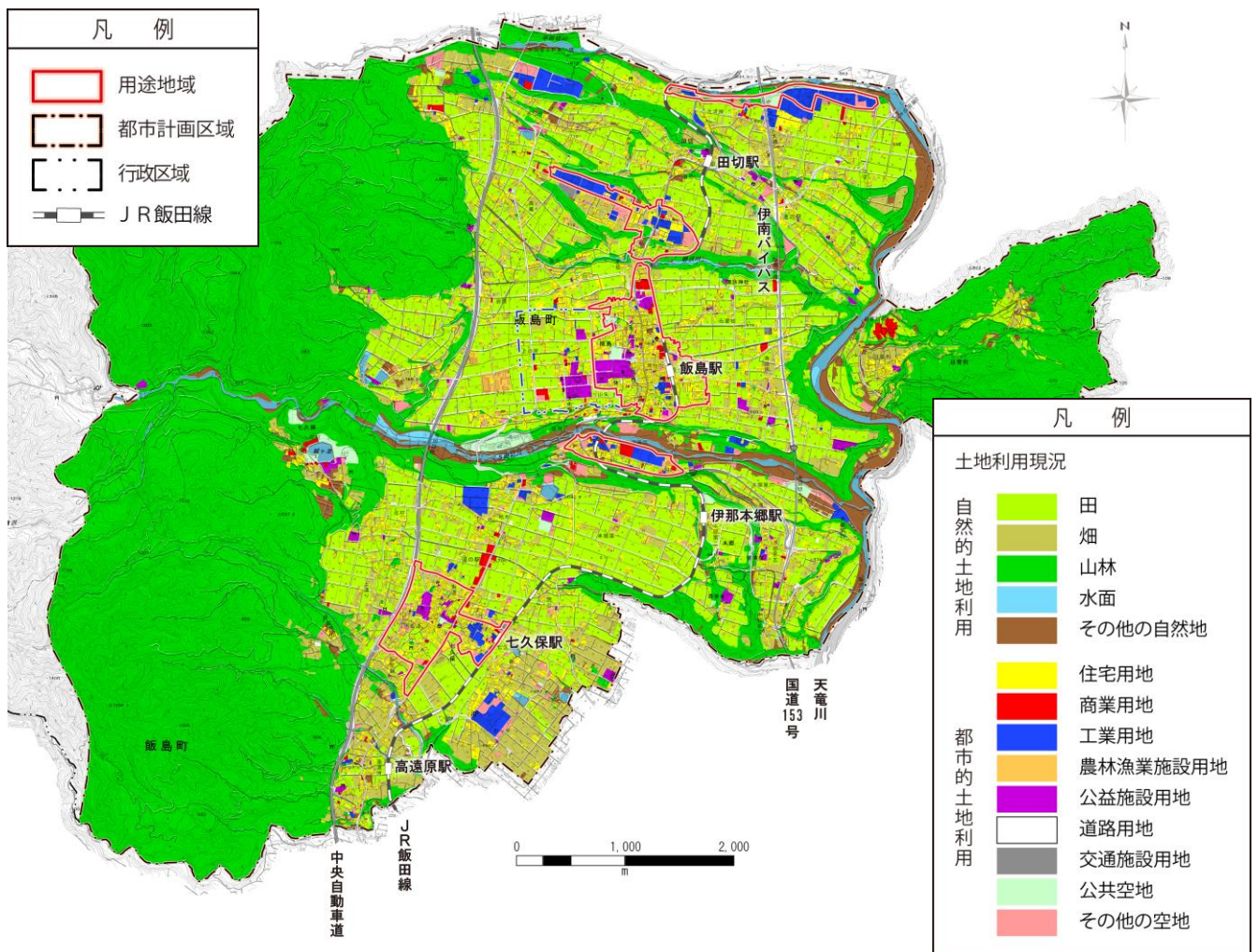


図 土地利用現況

資料：都市計画基礎調査（R7）

② 用途地域の指定状況

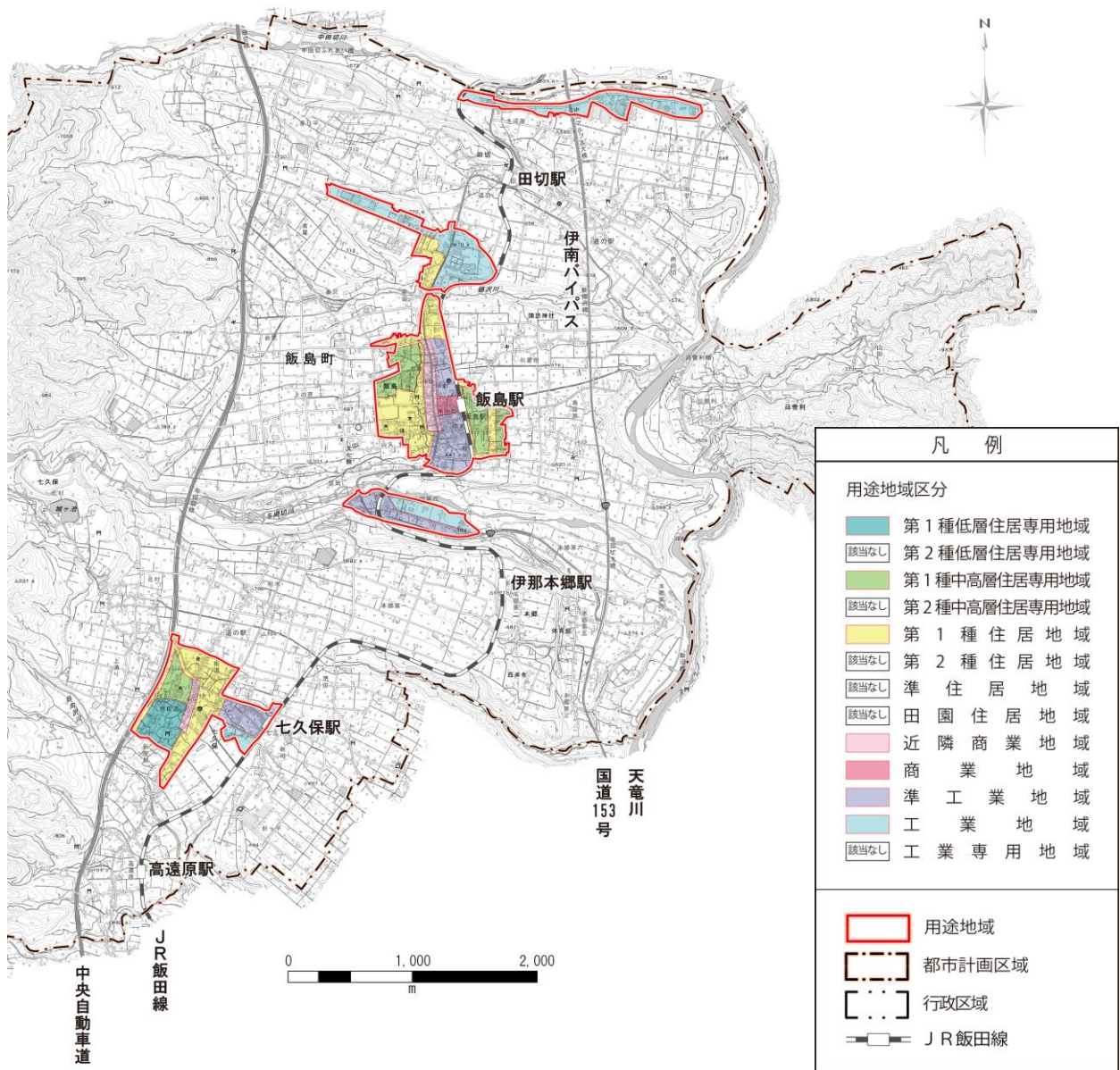
本町の用途地域は、昭和 54（1979）年 3 月 1 日に当初決定され、平成 7（1995）年 9 月 29 日に用途地域区分の細分類による変更決定が行われ、全 7 種類（総面積 218ha）が指定されています。

用途地域の面積は、都市計画区域面積（4,608ha）の 4.7% を占めています。

表 飯島町の用途地域区分の内訳

住居系			商業系		工業系		合計
第 1 種 低層住居 専用地域	第 1 種 中高層住居 専用地域	第 1 種 住居地域	近隣商業 地域	商業地域	準工業 地域	工業地域	
12 ha	26 ha	66 ha	10 ha	3.0 ha	44 ha	57 ha	218 ha
104 ha (47.7%)			13 ha (6.0%)		101 ha (46.3%)		

資料：2024 年 長野県の都市計画 資料編



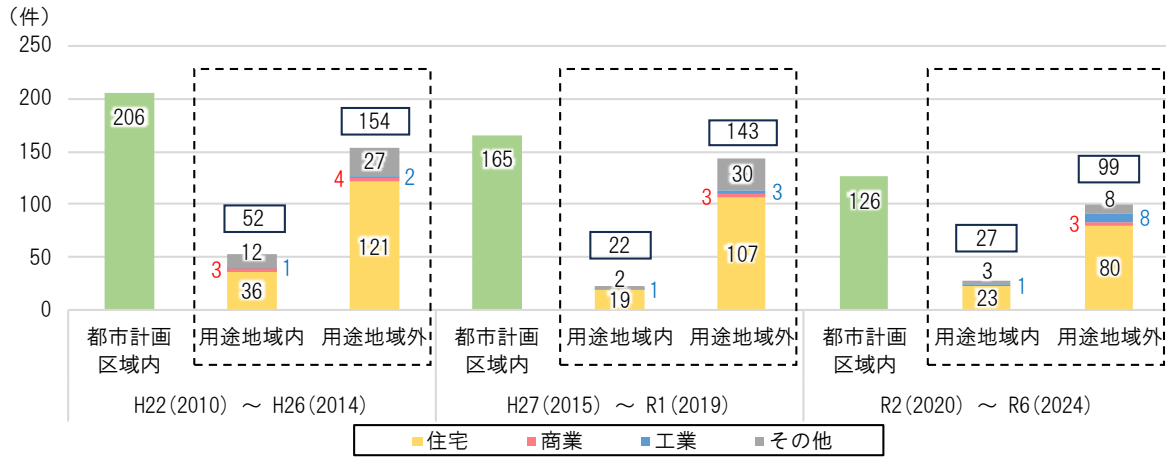
資料：飯島町都市計画図

図 用途地域の指定状況

### ③ 新築建物の分布状況

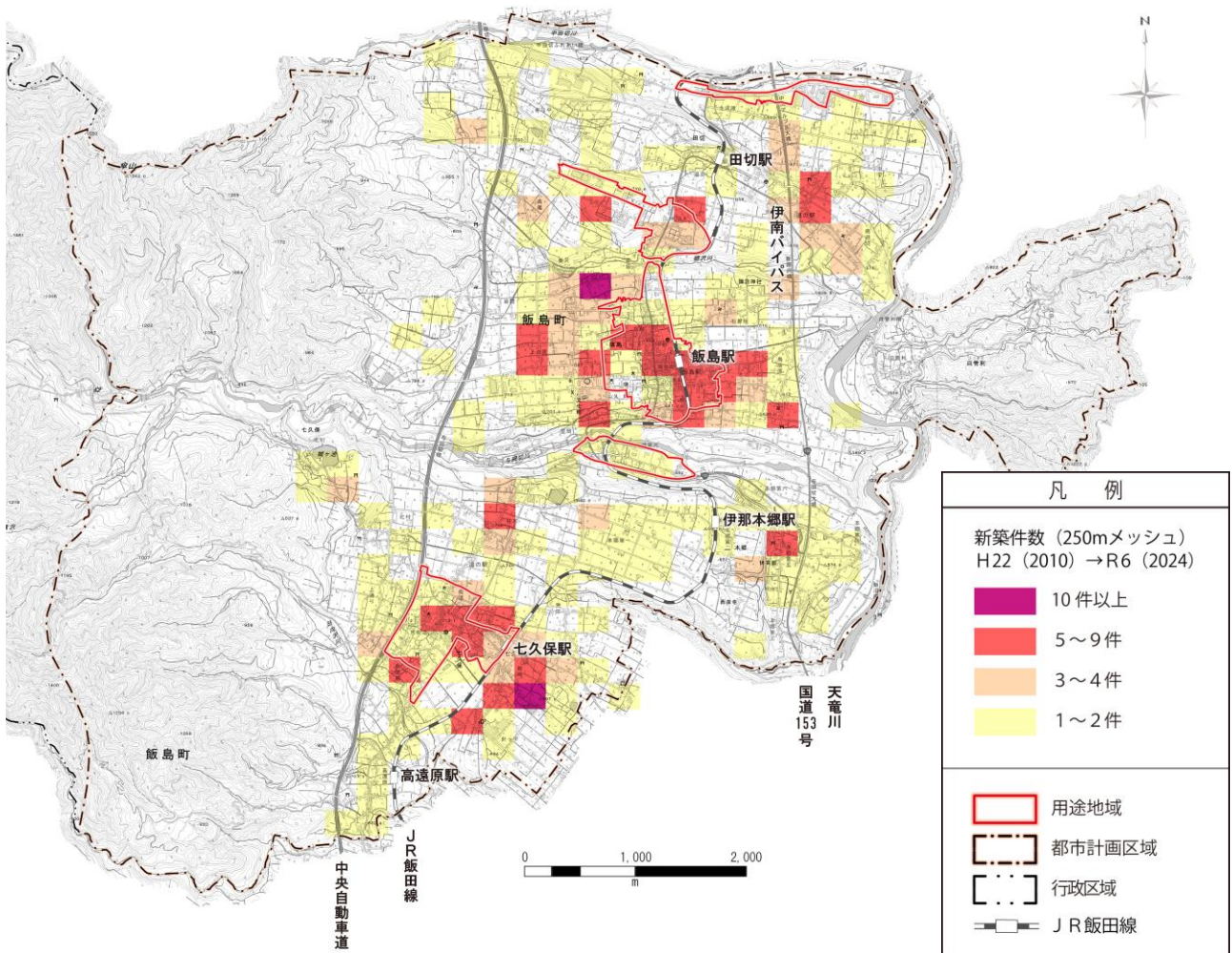
都市計画区域内における新築建物の件数は、平成 22（2010）年度から令和 6（2024）年度までの 15 年間で 497 件となっています。そのうち、住宅が 386 件と最も多く、全体の 77.7%を占めています。

250mメッシュ別の新築建物の分布状況を見ると、JR 飯島駅周辺や JR 七久保駅周辺で 5～9 件メッシュが広がっています。また、用途地域外にも多くの新築建物の拡大が見られ、特に、国道 153 号線沿道や広域農道沿道、JR 七久保駅東側などで件数が多くなっています。



資料：都市計画基礎調査（H27・R2・R7）

図 新築建物の建築状況



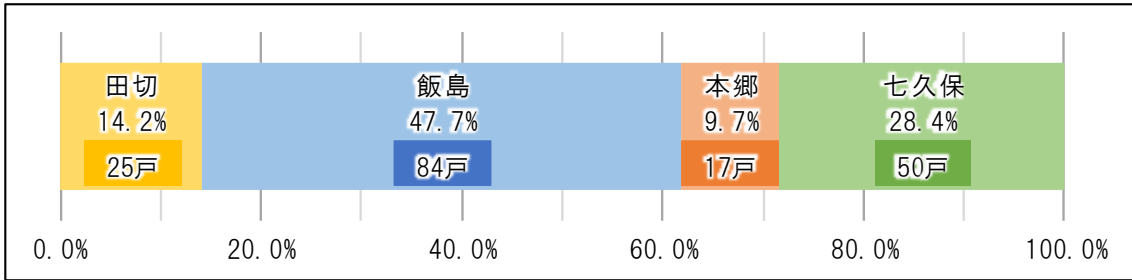
資料：都市計画基礎調査（H27・R2・R7）

図 新築建物の分布状況（平成 22（2010）年度～令和 6（2024）年度の 15 年間）

④ 空き家・空き店舗の分布状況

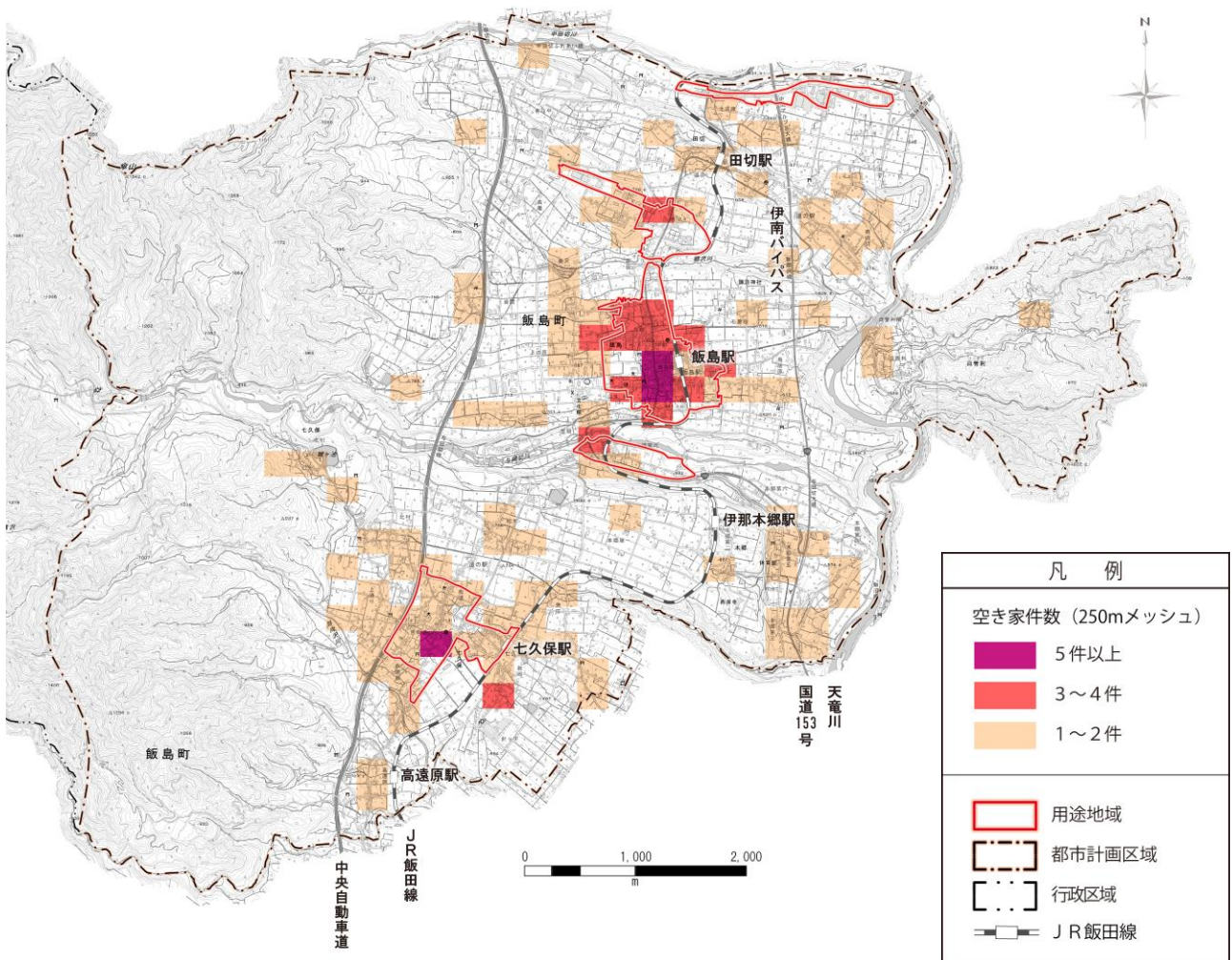
空き家・空き店舗の件数は、本町全体で 176 戸となっています。地区別に見ると、飯島地区が 84 戸（47.7%）と最も多く、次いで、七久保地区が 50 戸（28.4%）、田切地区が 25 戸（14.2%）、本郷地区が 17 戸（9.7%）となっています。

250m メッシュ別の空き家・空き店舗の分布状況を見ると、JR 飯島駅周辺の用途地域内において 3 件以上のメッシュが広がっています。JR 七久保駅西側の用途地域内でも 5 件以上のメッシュが見られ、都市のスポンジ化の進行が懸念されます。また、用途地域外にも空き家・空き店舗の分布が見られ、1～2 件のメッシュが町内各所に広がっています。



資料：庁内資料、都市計画基礎調査（R7）

図 地区別の空き家・空き店舗の件数

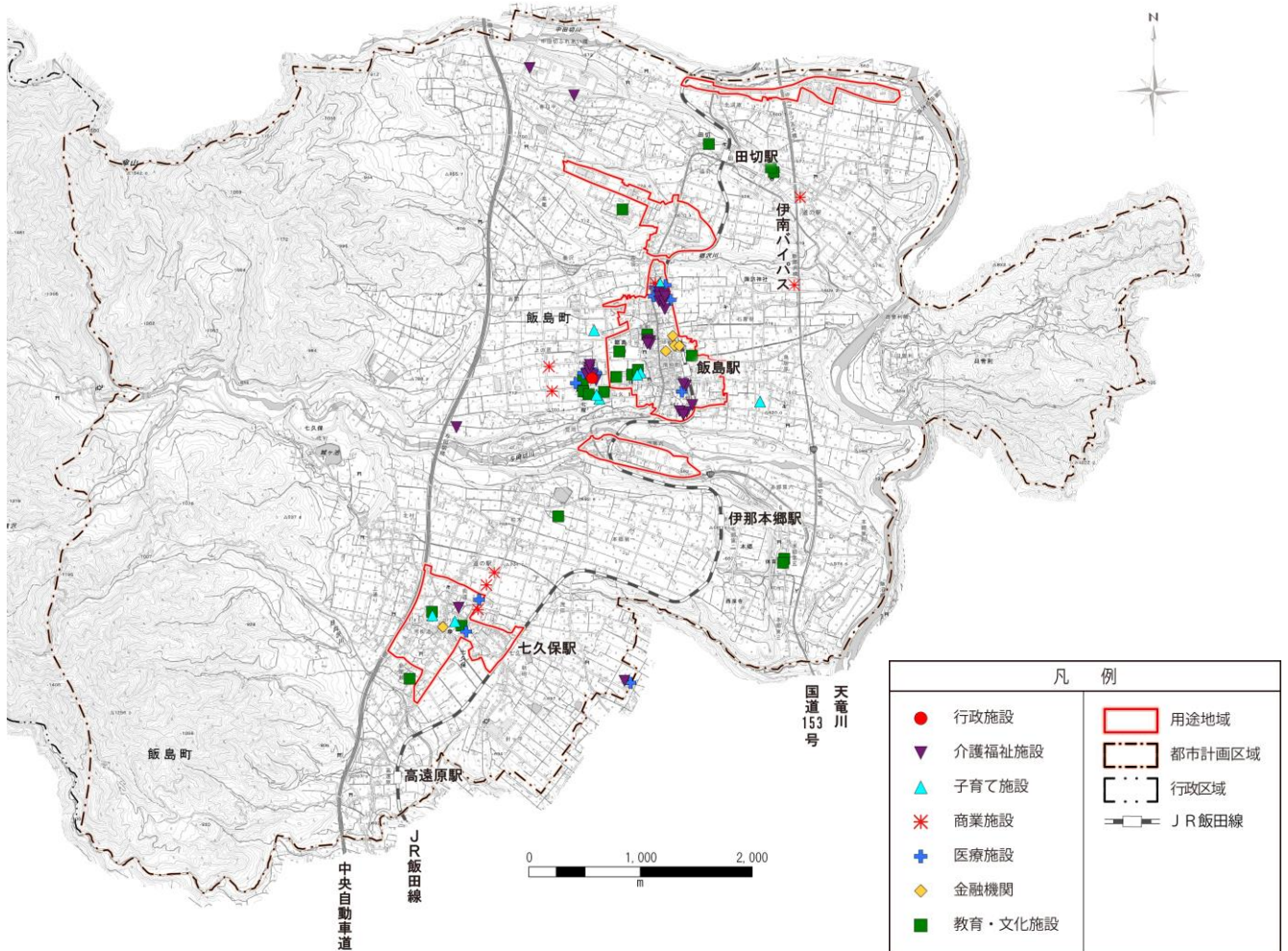


資料：庁内資料、都市計画基礎調査（R7）

図 空き家・空き店舗の分布状況

## 2-1-5 都市施設の分布

都市施設の分布状況を見ると、介護福祉施設や子育て施設、教育・文化施設は町内各地への分布が見られますが、その多くは用途地域内に集積して立地しています。飯島町役場は用途地域外に位置しており、その周辺には介護福祉施設や医療施設、教育・文化施設が集積して分布しています。金融機関はすべて用途地域内に立地している一方、商業施設は用途地域内への立地は見られません。



都市施設	具体的な施設
行政施設	町役場
介護福祉施設	地域包括支援センター、高齢者福祉施設、障害者福祉施設 など
子育て施設	子育て支援センター、保育所（保育園）、学童クラブ など
商業施設	スーパー、ホームセンター、ドラッグストア、コンビニエンスストア
医療施設	診療所、薬局（調剤薬局）
金融機関	郵便局、銀行、信用金庫、農業協同組合
教育・文化施設	小学校、中学校、図書館、文化館、公民館、スポーツ施設 など

資料：国土数値情報、庁内資料 ほか

図 都市施設の分布状況

## 2-1-6 道路

### ① 自動車交通量

主要道路の平日 24 時間交通量を見ると、南北方向では中央自動車道が 25,693 台/24h と最も多く、(主) 飯島飯田線及び伊那中部広域農道も 10,000 台/24h を超えています。国道 153 号 (伊南バイパス) は 9,317 台/24h の交通量がある一方で、市街地を通過する国道 153 号の区間では 2,820 台/24h にとどまっています。

東西方向では、(主) 伊那生田飯田線 (バイパス) が 2,842 台/24h、(一) 飯島停車場日曾利線が 2,229 台/24h となっています。

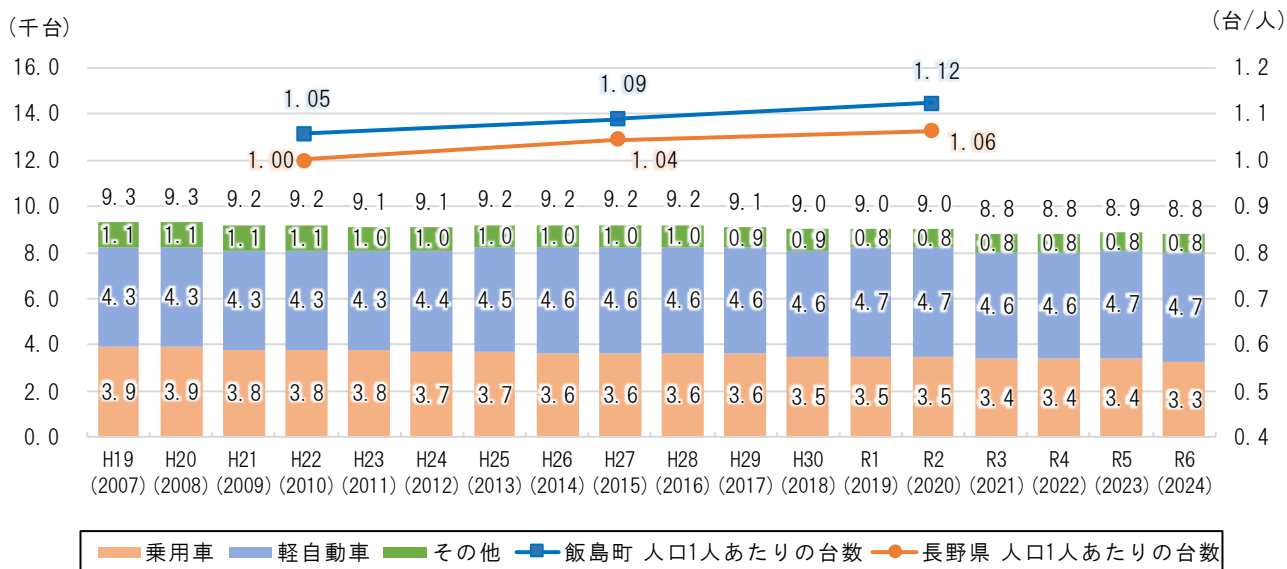


※斜体は、12時間交通量を24時間換算にした推定値  
資料：令和3年度全国道路・街路交通情勢調査、令和4年度駒ヶ根市調査

図 主要道路の自動車断面交通量 (平日 24 時間)

## ② 自動車保有台数

自動車保有台数の推移を見ると、令和6（2024）年度は平成19（2007）年度と比べて約5%減少しています。一方で、15歳以上の人口1人あたりの自動車保有台数を見ると増加傾向となっており、長野県全体よりも高い値で推移しています。



※ここでの人口は、生産年齢人口（15～64歳）と老年人口（65歳以上）の総数  
資料：国勢調査（H22・H27・R2）、

国土交通省 北陸信越運輸局 長野運輸支局「長野県の市町村別自動車保有車両数」年度末時点の数値

図 自動車保有台数の推移

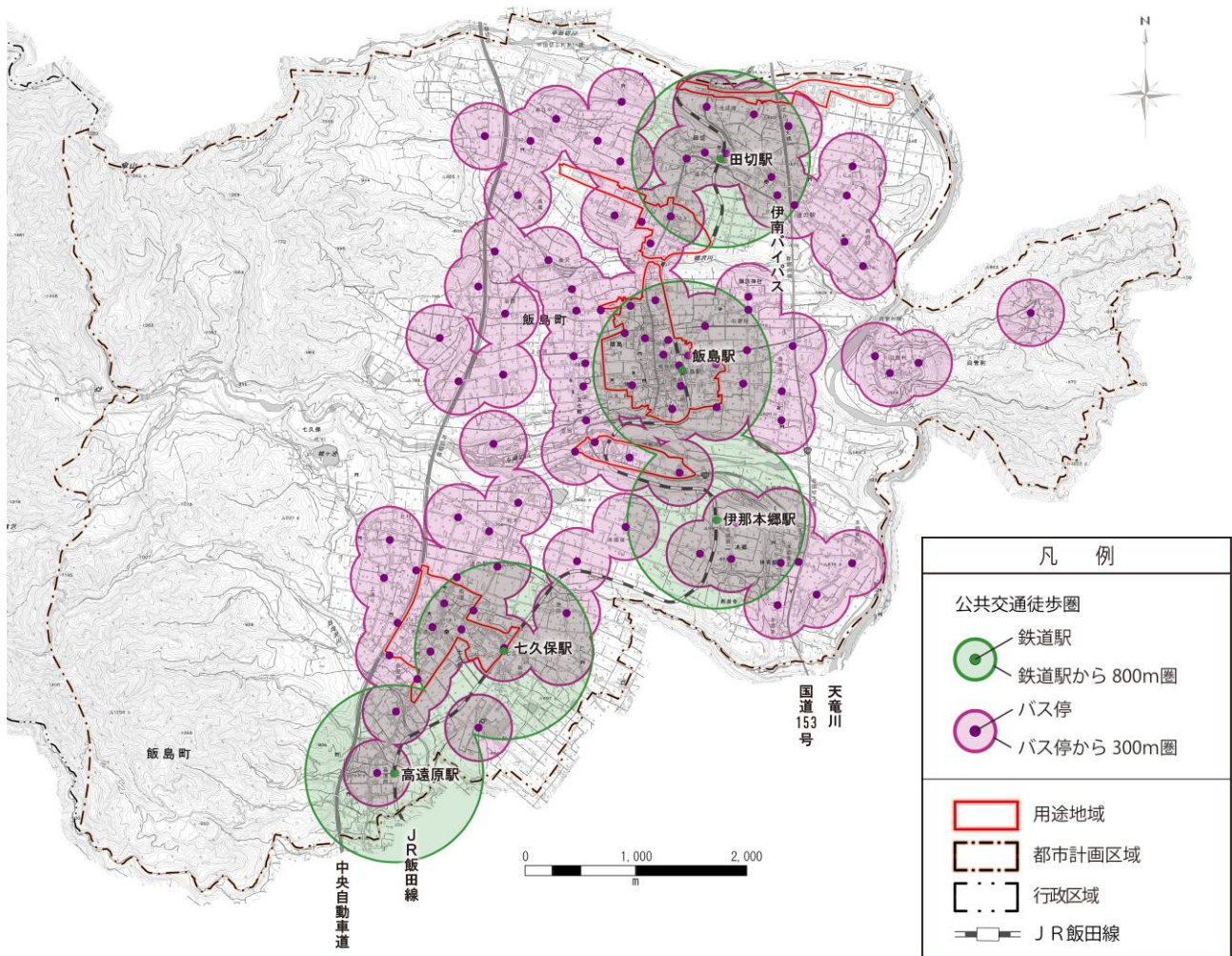
## 2-1-7 公共交通

### ① 運行エリア

鉄道はJR飯田線が運行しており、町内には田切駅、飯島駅、伊那本郷駅、七久保駅、高遠原駅の計5駅があります。

バスは生活交通の確保と利便性の向上を目的として「いいちゃんバス」が平成21(2009)年より運用されています。路線は、地域線(南部区域・北部区域)と、駒ヶ根市の昭和伊南総合病院からJR飯島駅を結ぶ病院線で構成されています。地域線(南部区域・北部区域)は予約のあるバス停のみを運行するデマンド方式、病院線は一部停留所を除いて予約が不要な定時・定路線方式で運行されています。

用途地域内のほぼ全域が公共交通徒歩圏\*となっています。



資料：国土数値情報、都市計画基礎調査(R7)ほか

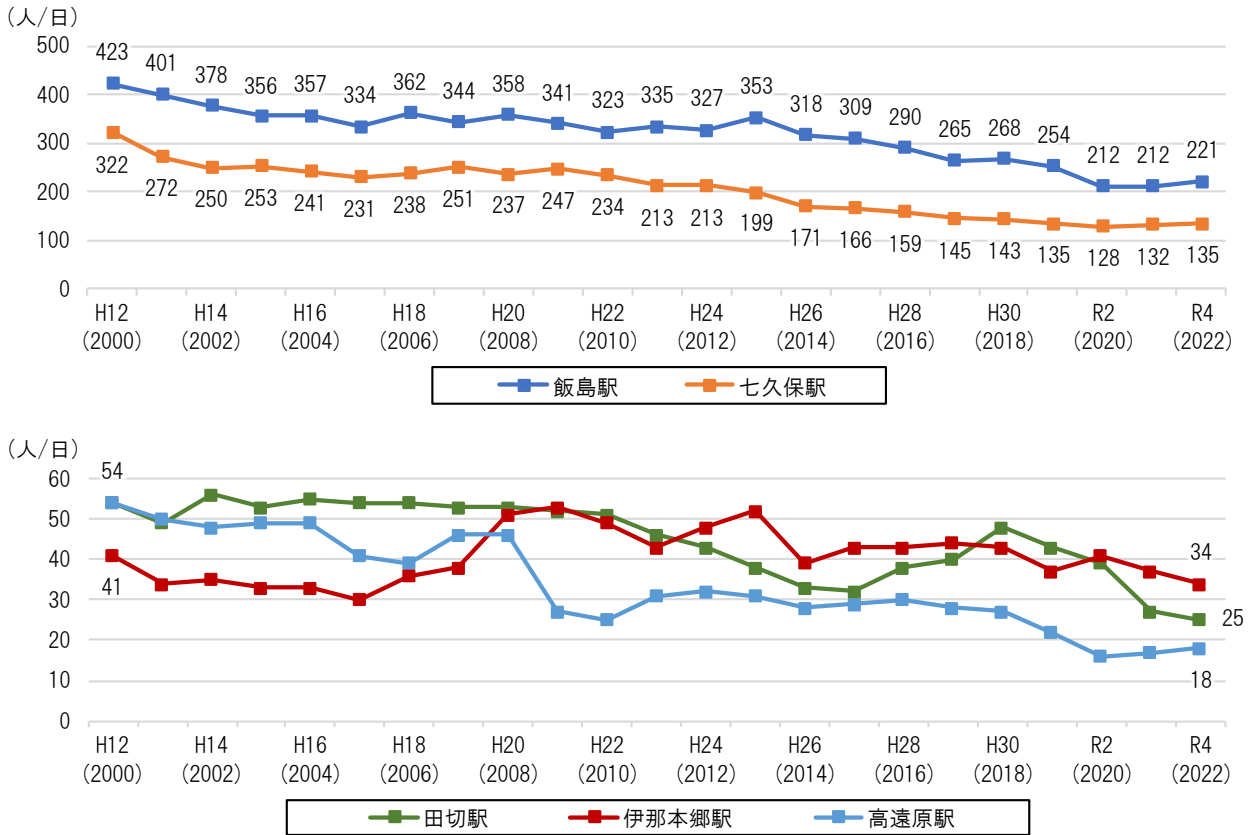
図 公共交通(鉄道・バス)の運行エリア

※ 公共交通徒歩圏 … 国土交通省「都市構造の評価に関するハンドブック(平成24(2014)年8月)」では、一般的な徒歩圏は800m、バス停からの徒歩圏は300mとされている。そのため、本計画では、町内全ての鉄道駅から800m圏及び町内全てのバス停から300m圏を公共交通徒歩圏とした。

種別		徒歩圏
公共交通	鉄道駅	鉄道駅から800m圏
	バス停	バス停から300m圏

② JR 飯田線の利用者数

平成 12 (2000) 年から令和 4 (2022) 年までの 1 日平均乗車人員数の推移を見ると、伊那本郷駅を除く町内 4 駅で減少傾向にあります。町内 5 駅の令和 4 (2022) 年の一日平均乗車人員数の合計は 433 人であり、平成 12 (2000) 年 (894 人) の半数以下にまで減少しています。

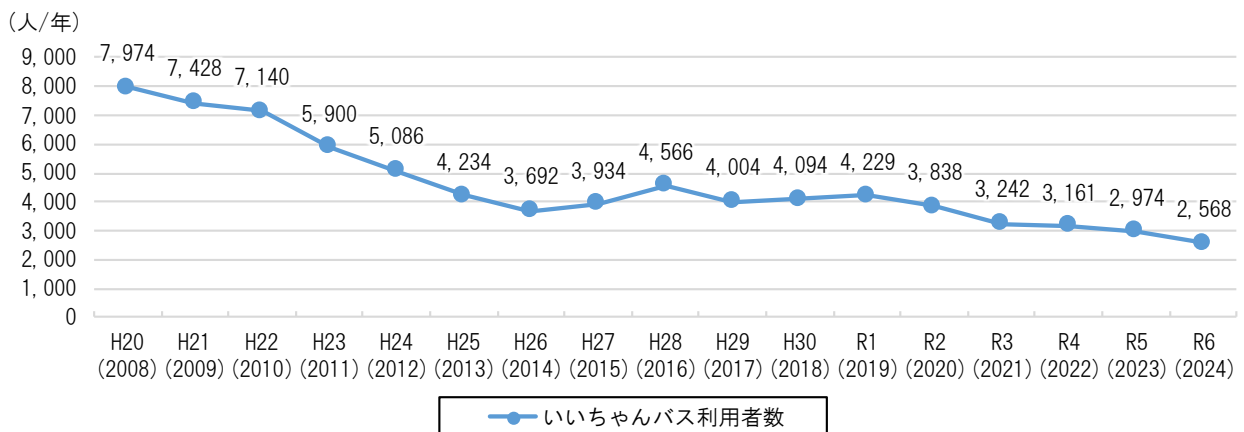


資料：長野県統計書

図 JR 飯田線の 1 日平均乗車人員数の推移

③ いいちゃんバスの利用者数

いいちゃんバスの年間利用者数の推移を見ると、平成 20 (2008) 年から平成 26 (2014) 年までは一貫して減少傾向でしたが、その後は横ばい~やや増加傾向となっています。しかし、令和元 (2019) 年を境として、再び減少傾向に転じています。



資料：庁内資料

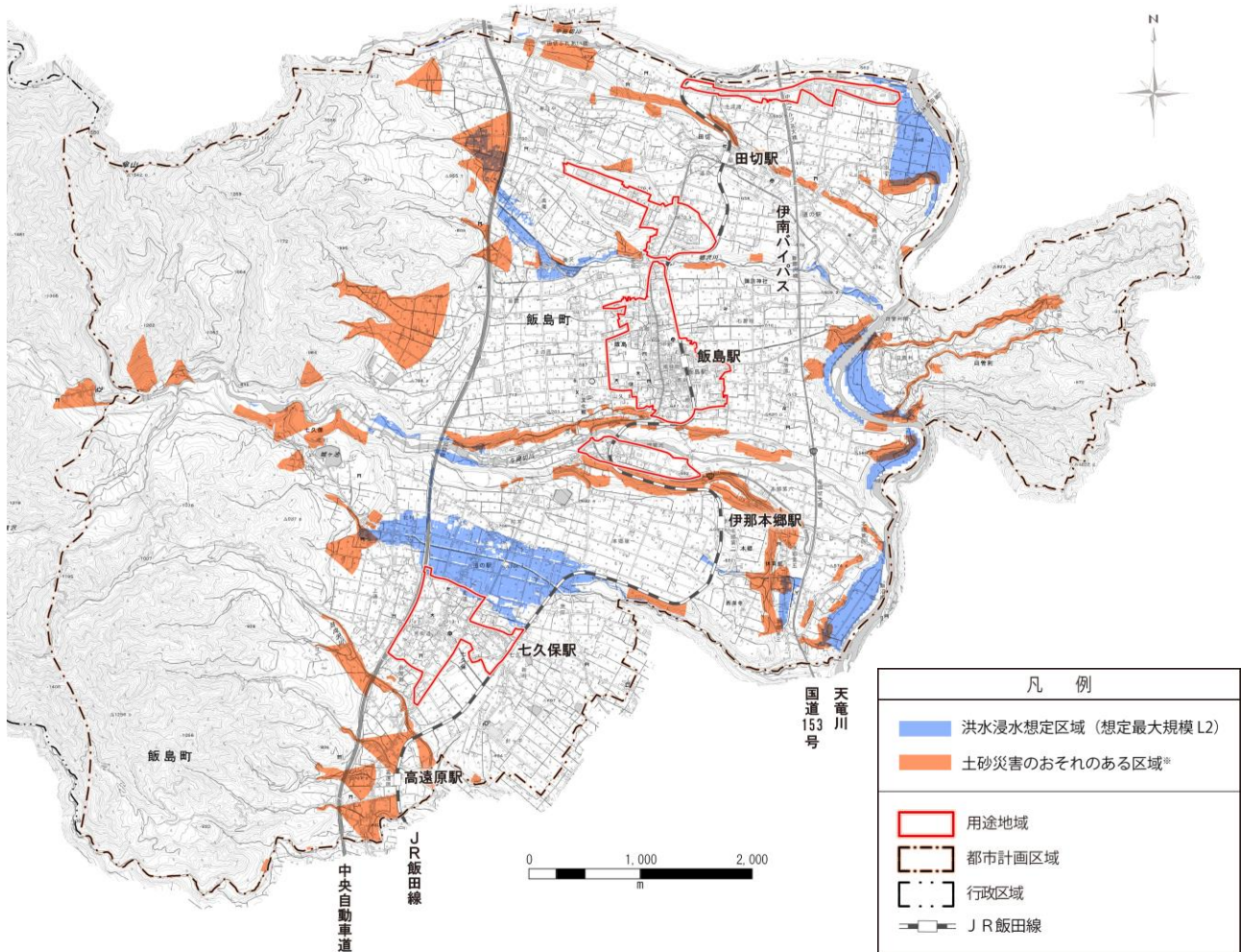
図 いいちゃんバスの年間利用者数の推移

## 2-1-8 災害

本町には一級河川の天竜川をはじめとして、天竜川水系の河川が多く位置しています。これらの河川の沿岸には、1,000年に1回程度の最大規模での降雨を想定した、想定最大規模（L2）における洪水浸水想定区域が指定されています。

また、急傾斜崩壊危険区域や土砂災害特別警戒区域などの土砂災害のおそれのある区域は、町内各所に分布しています。

用途地域内においては、概ね洪水浸水想定区域や土砂災害のおそれのある区域の分布は見られません。



※ 土砂災害のおそれのある区域 … 急傾斜地崩壊危険区域、土砂災害特別警戒区域、土砂災害警戒区域、山地災害危険地区（山腹崩壊危険地区）

資料：国土数値情報、信州くらしのマップ

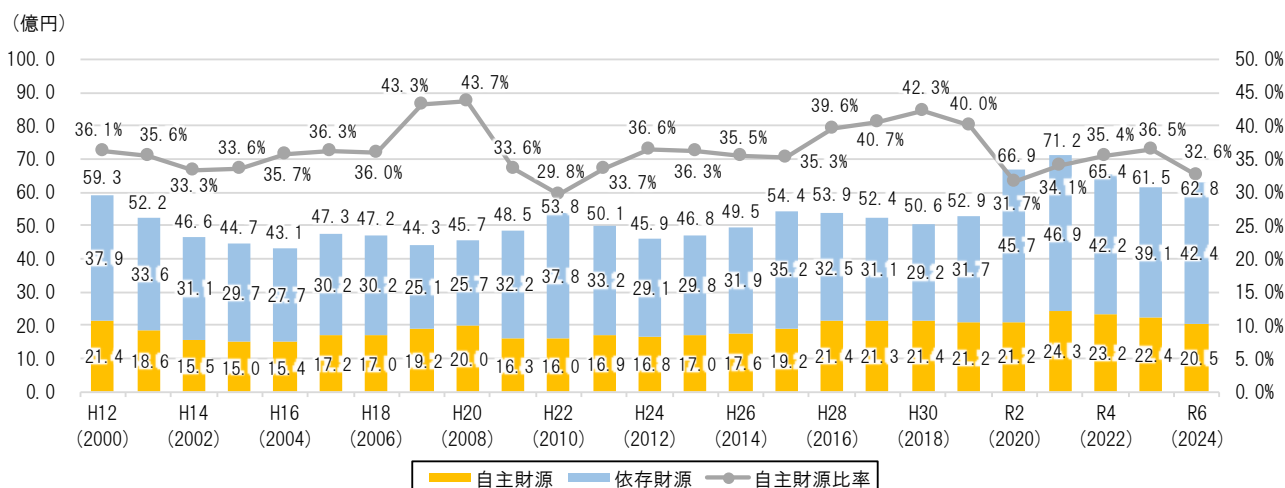
図 災害のおそれのある区域

## 2-1-9 財政

### ① 歳入

平成 12 (2000) 年以降の町の歳入額は概ね 50 億円前後で推移していましたが、令和 2 (2020) 年には 66.9 億円、令和 3 (2021) 年には 71.2 億円まで増加しています。それ以降はやや減少傾向にあるものの、60 億円以上の歳入額を保持しています。

町の歳入全体に占める自主財源の割合を見ると、何度か増減はあるものの、概ね 35%前後で推移しています。



※ 自主財源 … 地方税など、地方公共団体が自らの権限に基づいて収入を得ることができる財源のこと。  
 ※ 依存財源 … 国や県からの交付金や補助金など、外部からの支援によって得られる財源のこと。

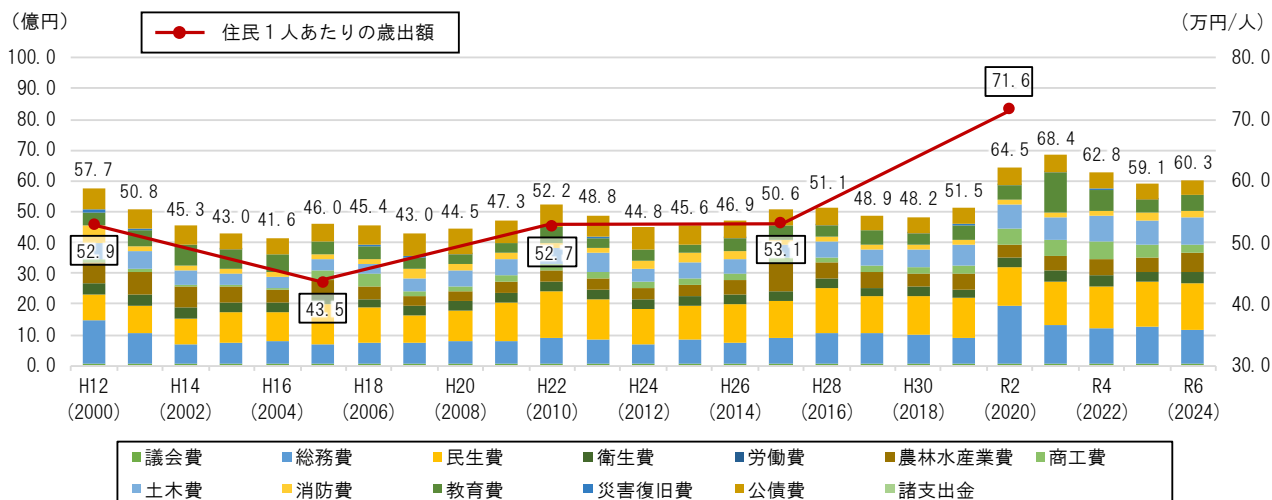
資料：総務省 市町村カード (H13～R5)、飯島町行政報告書 (H12・R6)

図 歳入額の推移

### ② 歳出

平成 12 (2000) 年以降の町の歳出額は概ね 50 億円前後で推移していましたが、令和 3 (2021) 年には 68.4 億円にまで増加し、それ以降は 60 億円前後で推移しています。

住民 1 人あたりの歳出額は、平成 27 (2015) 年以前では 50 万円前後でしたが、令和 2 (2020) 年には 71.6 万円にまで増加しています。

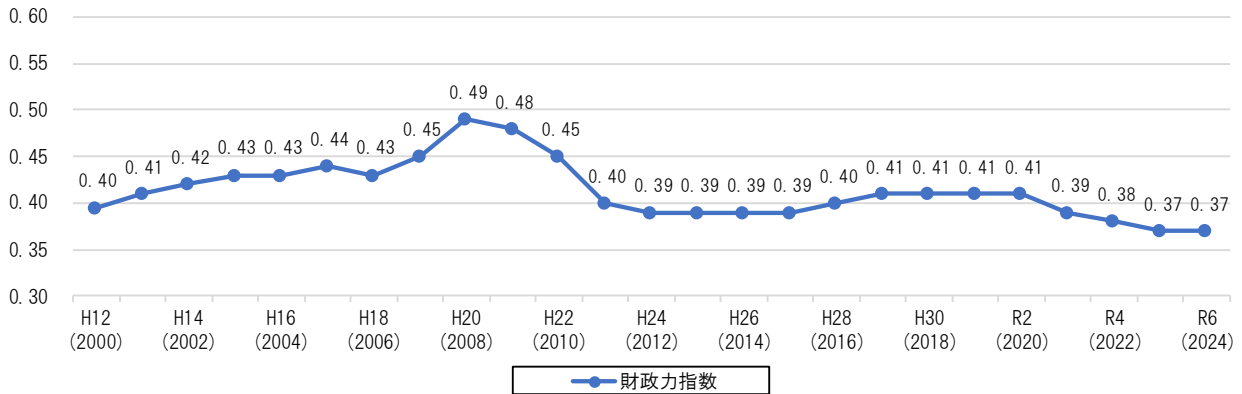


資料：国勢調査 (H12～R2)、総務省 市町村カード (H13～R5)、飯島町行政報告書 (H12・R6)

図 歳出額の推移

### ③ 財政力指数

町の財政基盤の強さを示す財政指数は、平成 12（2000）年から平成 20（2008）年にかけては増加傾向にあり、平成 20（2008）年は 0.49 となっています。しかし、それ以降は減少傾向が見られ、平成 23（2011）年以降は 0.40 前後でほぼ横ばいとなっており、令和 6（2024）年は 0.37 となっています。

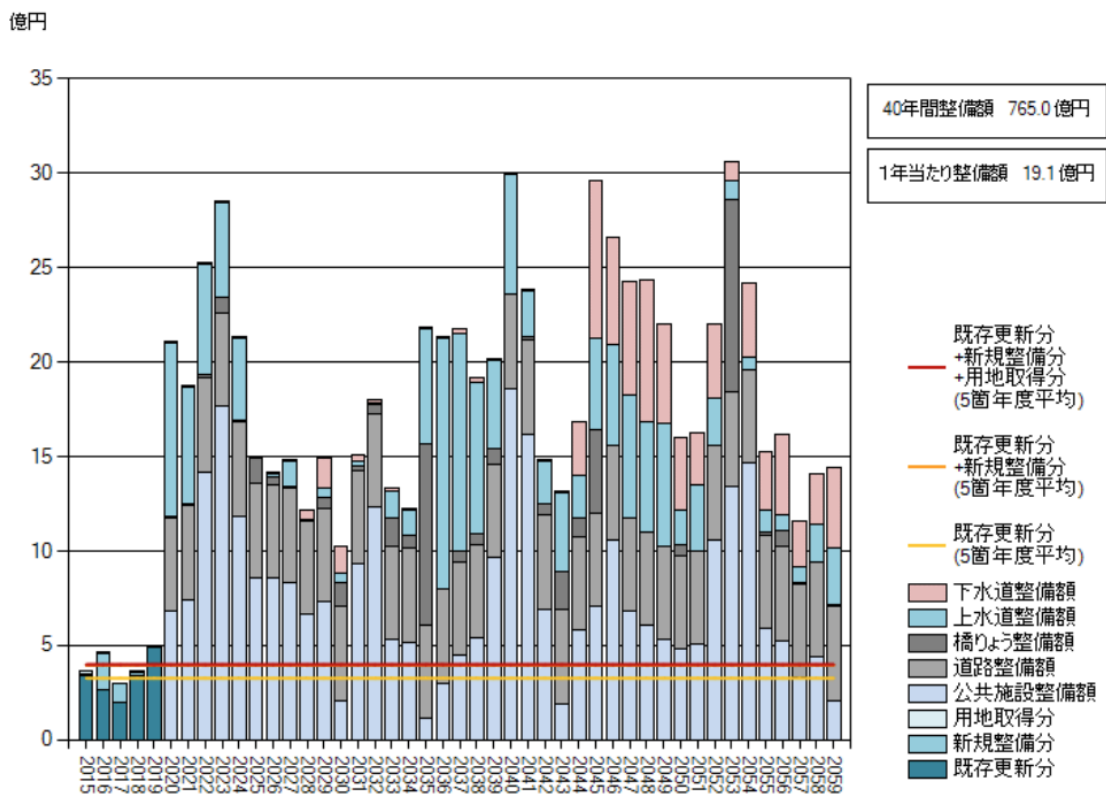


資料：総務省 市町村カード(H13～R5)、飯島町行政報告書(H12・R6)

図 財政力指数の推移

### ④ 公共施設等の更新費用

現在までに整備した公共建築物やインフラ施設の多くは、今後一斉に更新時期を迎えます。このまま公共施設等を全て保有し続けた場合の更新費用の合計は 40 年間で 765.0 億円と推計され、年平均では 19.1 億円かかると試算されています。これは、これまでにかけてきた投資的経費の年平均と比較して約 4.7 倍となっています。



出典：飯島町公共施設等総合管理計画（R3.3 改訂）

図 将来の更新費用の推計（公共建築物及びインフラ施設）

## 2-2 住民意向

飯島町都市計画マスタープラン改訂及び飯島町立地適正化計画策定に際し、住民意向を反映させた計画立案を行うため、住民を対象としたアンケート調査とワークショップを実施しました。

### 2-2-1 アンケート調査

#### ① 目的

飯島町都市計画マスタープラン改訂及び飯島町立地適正化計画の策定に際し、住民の現状やこれからの飯島町のまちづくりに関する意向等を把握し、それらを計画に反映させていくことを目的としました。また、将来を担う若者の意見も計画に反映させることを目的として、住民アンケートと可能な限り同様の設問構成で中学生を対象としたアンケートも実施しました。

#### ② 概要

##### <住民アンケート>

調査対象	令和元（2019）年7月に実施したアンケートの年代別回収率より傾斜配分により抽出した、住民基本台帳における満15歳以上（中学生は除く）の住民1,500人
調査方法	配布方法：郵送 回収方法：いいちゃんポストへ投函 または WEB回答
調査期間	令和5（2023）年10月19日（木）～11月24日（金）
回収状況	有効回収数：527通（回収率：35.1%）

##### <中学生アンケート>

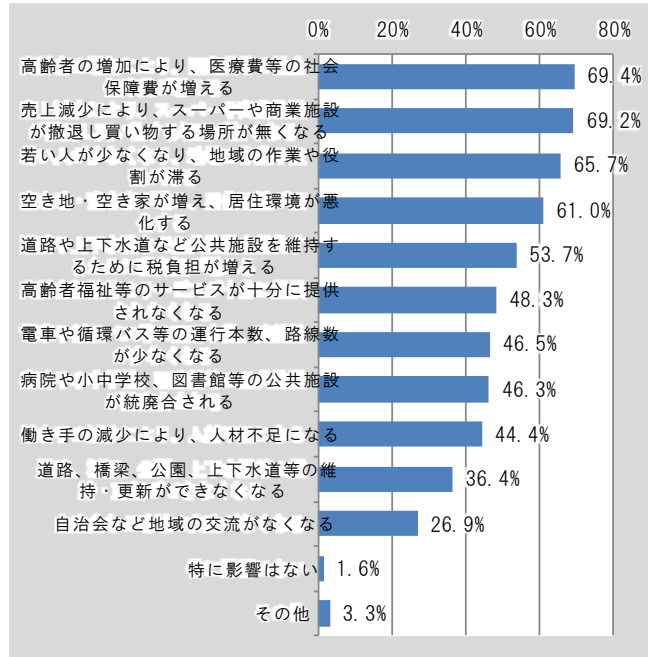
調査対象	飯島中学校 2年生及び3年生（129名）
調査方法	配布方法：「総合的な学習の時間」にて回答フォーム配布 回収方法：WEB回答
調査期間	令和6（2024）年5月15日（水）～7月19日（金）
回収状況	有効回収数：94通（回収率：72.8%）

③ 主なアンケート結果

<住民アンケート>

【少子高齢社会に起因する影響への認識】 問 13

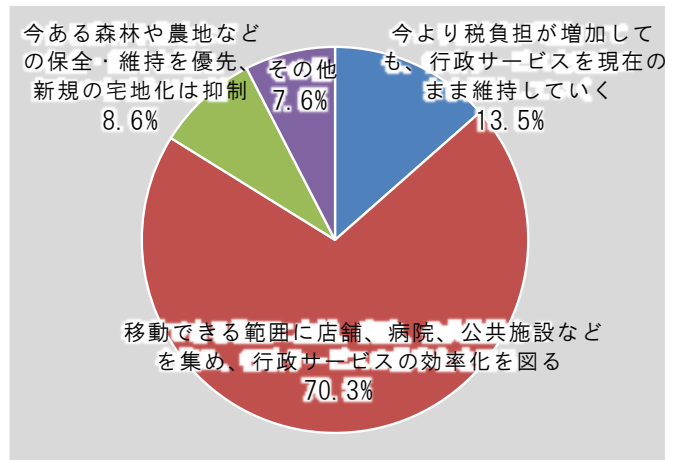
「高齢者の増加により、医療費等の社会保障費が増える」が69.4%と最も多くなっています。また、「売上減少により、スーパーや商業施設が撤退し買い物する場所が無くなる」「若い人が少なくなり、地域の作業や役割が滞る」「空き地・空き家が増え、居住環境が悪化する」の項目も60%を超えています。



【人口減少等による影響に対する行政の取り組み方針】 問 14

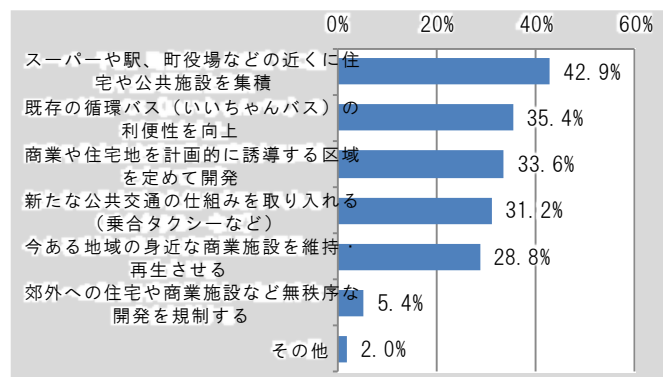
「移動できる範囲に店舗、病院、公共施設などを集め、行政サービスの効率化を図る」が70.3%と最も多くなっています。

一方で、「今よりも税負担が増加しても、行政サービスを現在のまま維持していく」は13.5%にとどまっています。



【コンパクトシティ形成に向けた重点施策】 問 15

コンパクトシティ形成に向けた施策は、「移動が少なくても快適に住み続けられるよう、スーパーなどの商業施設や駅、町役場などの近くに住宅や公共施設を集積させる」が42.9%と最も多くなっています。次いで、「既存の循環バス（いいちゃんバス）を今よりも便利で使いやすくする」が35.4%となり、「新たな公共交通の仕組みを取り入れる（乗合タクシーなど）」の31.2%を合わせると66.6%となっています。

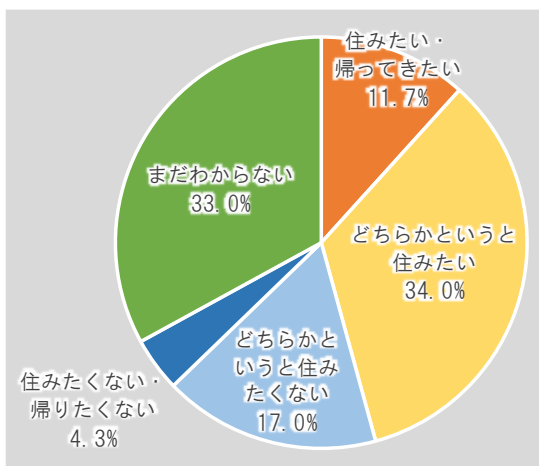


<中学生アンケート>

【将来の居住意向】 問7

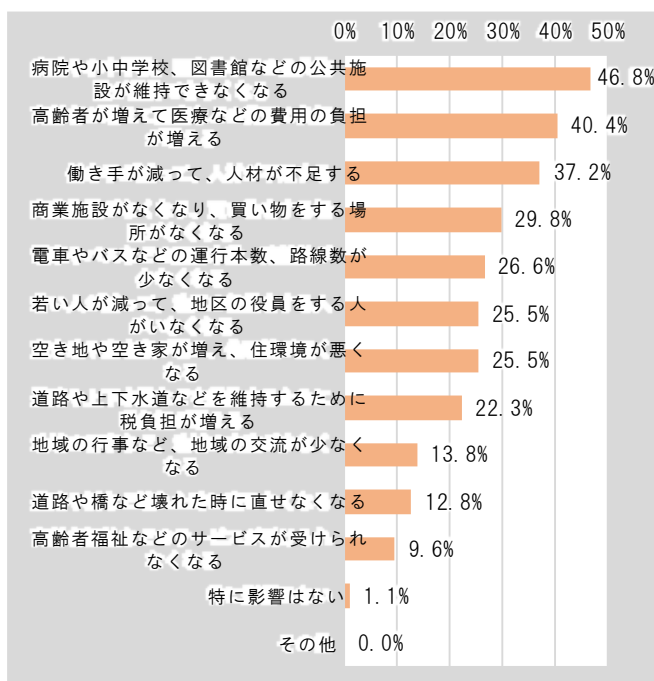
「どちらかというに住みたい」が34.0%と最も多く、「住みたい・帰ってきたい」の11.7%を合わせると45.7%となっています。

一方で、「どちらかというに住みたくない」と「住みたくない・帰りたくない」を合わせると21.3%であり、「まだわからない」も33.0%となっています。



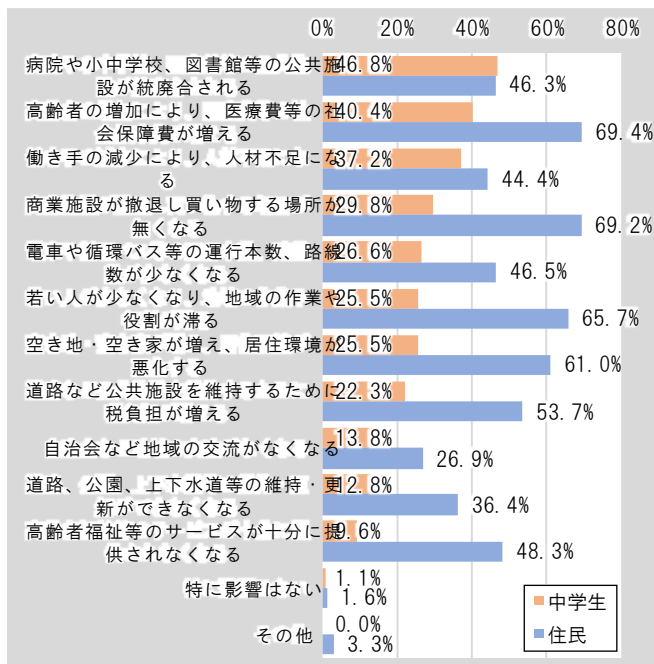
【少子高齢社会に起因する影響への認識】 問9

「病院や小中学校、図書館などの公共施設が維持できなくなる」が46.8%と最も多く、次いで、「高齢者が増えて医療などの費用の負担が増える」が40.4%、「働き手が減って、人材が不足する」が37.2%となっています。



住民アンケート（問13）と中学生アンケート（問9）を比較すると、中学生は、病院や小中学校など公共施設の統廃合や高齢者の増加による医療費の増加には関心がある一方、買い物の場や若者の数の減少、空き家の増加などには関心が薄い傾向が見られます。

住民は全般的に高い割合で地域課題を懸念しており、世代間で課題認識の強さに差があることがわかります。



## 2-2-2 ワークショップ

### ① 目的

飯島町都市計画マスタープラン改訂及び飯島町立地適正化計画の策定に際し、地区ごとの課題や特色、これからのまちづくりへの要望や課題等を把握し、それらを計画に反映させていくことを目的としました。また、住民の方に計画の概要を説明し、理解を深めていただくことも目的としました。

### ② 概要

開催日	令和6（2024）年 8月17日（土） 8月22日（木）
開催場所	飯島町文化館 中ホール
参加人数	51人（2日間延べ人数）
テーマ	地区の特色や課題 ①「私たちの地区ってどんなところだろう」 ②「地区の良いところ・悪いところを探してみよう」 都市の骨格と施設整備 ③「暮らしやすい飯島町になるために必要なものや必要なことは何だろう」

③ 主な住民意向

<飯島地区・田切地区>

テーマ1 私たちの地区ってどんなところだろう  
 テーマ2 地区の良いところや悪いところを探してみよう

飯島地区 田切地区  
 ○ 良いところ ▲ 悪いところ

土地利用	コンパクトシティ	道路歩道	公共交通	自然環境・景観	産業・働く場	買物・生活	地域コミュニティ	
<p>○現状でのままで良い。</p> <p>国道153号・国道153号バイパス周辺の土地利用を考えるべきである。</p> <p>思い切った土地整備をしたら良い。</p> <p>高齢者に配慮した使用しやすい街づくりが必要。</p> <p>▲町中の活性化のための計画がなされていないように感じる。</p> <p>▲土地利用が田んぼに偏っている。</p> <p>▲土地代が高い。</p>	<p>営農組合と農業法人が地区の農地を守っている。農地を維持していく、新しい方法や仕組みが必要。</p> <p>田切駅や道の駅「田切の里」を中心とした人の流れの構築を図る。</p> <p>昭和伊南病院の移設に伴い、土地利用に変化がおこると思われる。</p> <p>産業廃棄物埋立処分地と田切クリーンセンター埋立地の活用を図る。</p>	<p>コンパクトシティを、役場周辺にするのか駅前周辺にするのか明確にしていくべきだ。</p> <p>町の空洞化について、どうするのが良いかも併せて考えるべきだ。</p> <p>飯島地区では駅前に空地がなく、かと言って役場周辺に行くことは可能なのか。</p> <p>コンパクトシティは理想であるが、既存の町内の商店はどうなるのか。また、車の利用ができない人にとっては、駅か遠い場所では意味がない。</p>	<p>▲町に街灯がなく暗い。</p> <p>一部の歩道は整備されているが、通学路の歩道整備をすすめるべき。</p> <p>▲道路や歩道が狭く、傷んでいる。</p> <p>▲国道153号の両側に高低差がある。</p> <p>○道路はそれなりに整備がされている。</p> <p>公園・広場</p> <p>○千人塚公園の使い方について、若い人が頑張っているところが良いと思う。</p> <p>▲小さい子供の遊べる公園が少ない。もっと、公園の整備をしたら良いと思う。</p> <p>▲与田切公園は、キャンプをする人が優先で、遊具もなげ元の人はいきづらい。</p>	<p>バスのルートや時間がわかる情報の共有や工夫が必要だと思う。</p> <p>▲バスを利用しにくい。</p> <p>▲タクシーを利用したいが、不便だ。</p> <p>免許を持っている人が多いため、あまり公共交通は必要とされにくい。</p> <p>JR飯田線は利用しやすいが、便数やダイヤの工夫が必要である。</p> <p>ドアtoドアの実現。</p>	<p>○2つのアルプス(中央アルプスと南アルプス)の景観がすばらしい。</p> <p>○農地の法面の草刈りがとてもよくされているし、季節の花を大切に育てられている。</p> <p>○上伊那最古の民家がある。</p> <p>○適度な自然や花があり過ごしやすい、四季が美しい。</p> <p>地域の活性化に花を活かしてほしい。</p> <p>町内の里地に標高差があり、多様な環境がある。</p> <p>○田切地形が見られる。</p> <p>▲段丘が多く困る。</p>	<p>企業の誘致をして、人口増加につなげる。</p> <p>企業の新規進出は地元住民の同意が得られにくい可能性がある。</p> <p>▲優良な企業は多いと思うが、工業団地が不十分で、雇用があまり確保されていない。</p> <p>▲地域企業が十分に認知されていない。</p> <p>▲ホテル・宿など、宿泊施設が少ない。</p> <p>▲農業の多くが現地利用型で収入が厳しい。</p> <p>▲働く場がない。</p>	<p>飯島駅周辺は住宅が多いが、空き家も多い。再開発が必要である。</p> <p>○飲食店が多く住みやすい。</p> <p>▲買い物や食事をすることが少なく、地区内で買い物をする事は少ない。</p> <p>子供が減っていて、学校を統廃合する検討も必要。</p> <p>▲病院が近くに欲しい。</p> <p>▲車を運転できない人が寄り合う場所が少ない。</p> <p>道の駅「田切の里」を、さらに拡大させ商品を充実させてほしい。</p>	<p>○人との結びつきが非常に強い。</p> <p>▲移住してきた人をコミュニティに加えていくところがある。</p> <p>▲自治会の未加入が増え、地域コミュニティが縮小している。</p> <p>○大勢の人が集まるイベントやお祭りが多い。</p> <p>▲普段の憩いの場となる場所が少ない。</p> <p>防災・防犯</p> <p>○比較的災害が起りにくい地形・地盤である。</p> <p>▲災害時を考えると、体育館・公園のトイレや避難所が少ない。</p> <p>○隣同士のつながりが防犯や安全につながる。</p>

・中田切川  
川の水がきれい。  
水道水がおいしい。

・トレーラーハウス  
移住、定住対策に  
トレーラーハウスが  
十分に活かされていない。

・花桃街道  
花がきれい。  
手入れは高齢者が行っており、  
若い人を取り込んでいく必要がある。

・御嶽山や御嶽神社からの  
景観がすばらしいよ！

・文化館  
立地的に人が集まり  
にくい場所である。  
図書館前の広場  
時々、小さな子供が  
集まっている。

・御座松キャンプ場  
利用価値を高める。

・千人塚公園  
自然が豊かである。

・与田切公園  
プール・広場・湧水など  
整備されており、県外から  
の来園者も多い。  
遊具が取り外されてしまい、  
地元住民は利用しにくい。

・広域農道と国道153号をつなぐ  
広い道路が欲しい

・JR飯田線の  
Ωカーブ

・聖徳寺  
アニメの記念灯  
を観光に活かす。

・中央アルプス大橋  
一般道で長野県内最長  
の橋を観光に活かす。

・町道道引南田切幹1号線  
よく渋滞しているため、  
道路拡幅を行ってほしい。

・日方神社  
煙火祭り  
花桃

・産業廃棄物  
埋立処分地の活用

・田切クリーンセン  
ター埋立地の活用

・吉瀬から見る  
景観が良い！

・中平東の天竜川沿岸  
古川の防災に問題あり  
堤防の整備をしてほしい。

・日善利地区  
魅力的な景観・自然  
災害時の避難施設に  
不安がある。

・東部保育園からの  
景観を守りたい！

・町道鳥居原線  
未完成のため、JR  
飯田線～広域農道  
までの区間の整備  
をしてほしい。

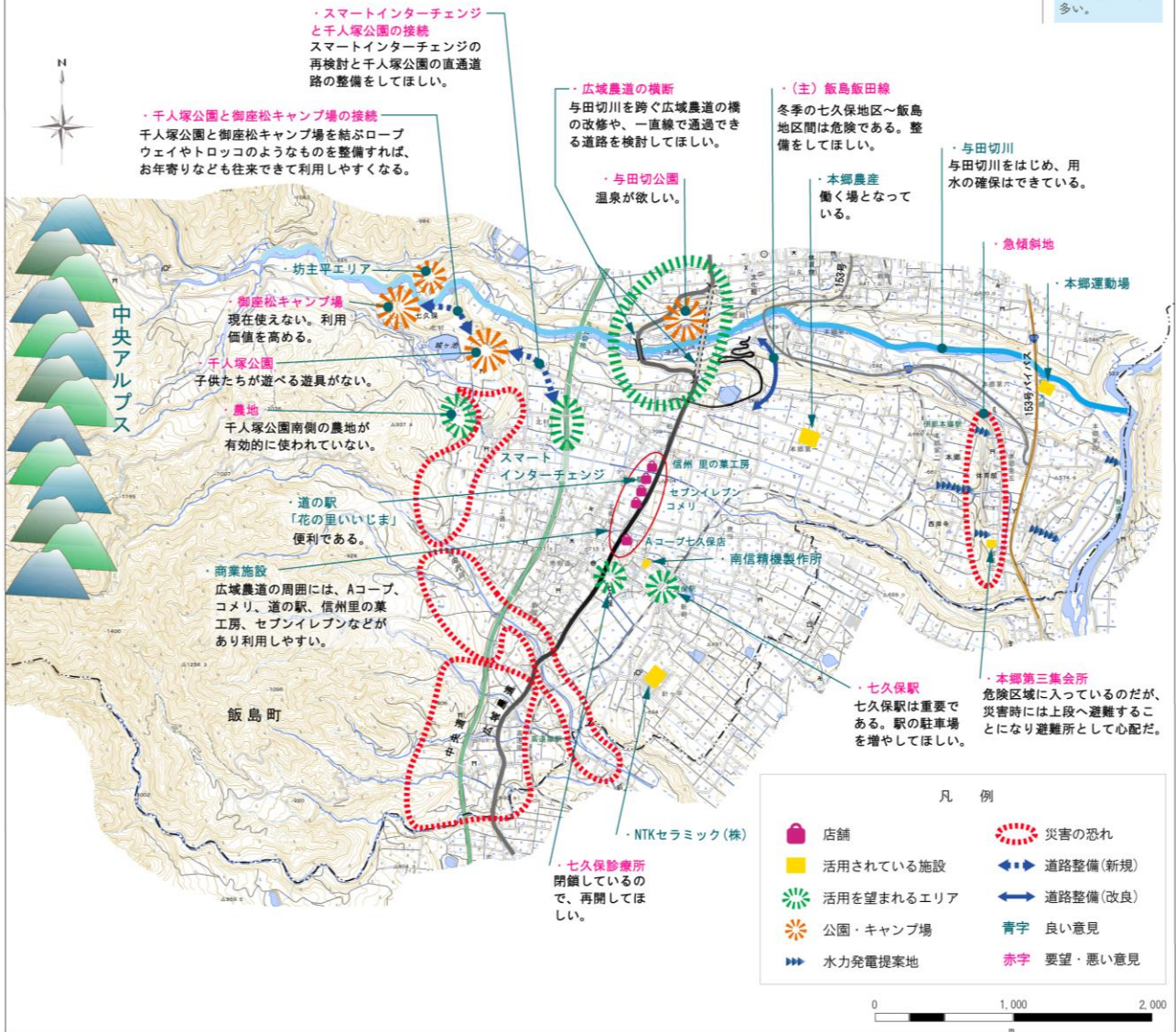
・Aコープ飯島店  
再構築して、誘客力を  
上げると良い。

テーマ1 私たちの地区ってどんなところだろう

テーマ2 地区の良いところや悪いところを探してみよう

七久保地区 本郷地区  
 ○ 良いところ ▲ 悪いところ

土地利用	道路歩道	公共交通	公園・広場	自然環境・景観	産業・働く場	買物・生活	地域コミュニティ
<p>▲農地が多く残っている。草刈りなどの管理が必要な面積が大きい。</p> <p>▲農地規制により、住宅街の休耕田の活用ができない。</p> <p>▲田んぼとして農地整備が行われているが、住宅密集地は整備が行われず小規模なままとなっている。</p> <p>▲荒廃した畑が多い。</p> <p>○農業(特に米)が盛んである。</p> <p>▲本郷第三と本郷第四と本郷第六は旧来の道路が入り組んでいる関係で、農地整備が進んでいない。</p>	<p>○基礎の目のように道路が整備されており走行しやすい。</p> <p>▲道路の幅が狭く危険。</p> <p>▲急傾斜地が多く、自転車や徒歩での移動は困難である。</p> <p>▲役場庁舎へ行く道路が少ない。</p> <p>▲宅地が分散しているため道路延長が長い。</p> <p>▲歩道の設置がない道路も多い。</p> <p>▲街灯がないため、夜道が危険である。</p> <p>▲スマートインターチェンジを設置してほしい。</p>	<p>▲タクシーは飯島地区から呼ぶ必要があるため不便である。</p> <p>▲情報発信が不足しており、いちゃんバスの利用がわからない。</p> <p>▲地区への移動は自動車以外では厳しい。</p> <p>▲車社会であるため、運転できない人や高齢者を除くほとんどの人が自家用車で用が足りている。</p> <p>▲本郷地区からウエルシア周辺までの無人電気バスの整備をしてほしい。</p> <p>七久保駅は重要。駐車場を増やしてほしい。</p>	<p>○千人塚公園・与田切公園・坊主平など、地域全体で自然が親しめる。</p> <p>▲千人塚公園以外に特徴的な公園がない。</p> <p>▲子供が公民館で遊ぶこともあるが、支援員がいないと外で勉強しているなど、うまく利用されていない。</p> <p>▲公園や広場がない。</p>	<p>○風景が良い。</p> <p>▲自然環境は良いが、その利用方法が不十分である。</p> <p>▲崖や急傾斜地を利用した水力発電導入の検討を行う。</p> <p>▲自然環境の保全されている面がある一方、壊されたり無関心な面もある。</p>	<p>○NTKセラミック、南信精機、JA、里の業工房、コメリ、道の駅などの企業が多くある。</p> <p>▲優秀な人材は都会へ行ってしまおう。</p> <p>▲女性の働ける職種が少ない。</p> <p>▲働く場がなく、人材の多くは駒ヶ根市や松川町に流れてしまっている。</p> <p>▲水力発電の導入をすることによって、産業にもなる。</p>	<p>▲空き家が多い。今後、さらに増えるのではないかと。</p> <p>▲七久保診療所を再開してほしい。</p> <p>▲日用品の買い物や飲食ができる場所が少ない。</p>	<p>○七久保地区は、飯島町内では最も人口減少が少ない地区であり、移住者も多い。</p> <p>○地域コミュニティは健全である。</p> <p>▲防災・防犯</p> <p>▲北村地区、上通り地区、高遠原地区は土砂崩れの危険が高い。</p> <p>▲災害が多い。</p> <p>▲国道153号バイパス西側などに急傾斜地が多く、土砂災害の危険が高い。</p> <p>▲地すべり地帯が多い。</p> <p>▲防犯灯はあるが小さく暗いところが多い。</p>



<飯島町全体>

町全体で考える テーマ3 暮らしやすい飯島町になるため必要なもの・ことは何だろう

コンパクトシティの考え

- <飯島地区>**
  - 飯島駅周辺は住宅密集地であり「役場を中心とするエリア(学校や保育園等が位置しており、空地もある)」
  - または「鳥居原～飯島駅にかけてのエリア(比較的土が開けており、保育園も位置している)」
  - コンパクトシティを目指すならば、飯島駅前に商店街が必要。
  - コンパクトシティや中学校の周辺に介護施設などを集約させる。
  - その際には、飯島駅とのつながり(アクセス)も考える必要あり。
- <田切地区>**
  - 田切駅周辺は現状難しいため、「道の駅田切の里周辺～公民館にかけてのエリア」がよい。
  - 田切駅を中心とした人の流れを作っていくべき。
- <本郷地区>**
  - 電東線の道路計画を大いに活用した「消防署エリア」がよい。
  - 本郷は要検討。
- <七久保地区>**
  - 七久保駅前には工場などが立地しているため難しい。
  - 「小学校や保育園、道の駅花の里いいじまエリア」がよい。
- <全体>**
  - 飯島、七久保、田切にコンパクトシティをつくり、それぞれつなげる。
  - 町内5つの駅を活かした区画整理を行い、すっきりとさせる。

公園等の整備

- <全体>**
  - 子供が遊べる公園が少ないため欲しい。
- <役場・文化館周辺>**
  - 「ふれあい公園」や「ポケットパーク」が欲しい。
- <田切道の駅>**
  - 桜があり人も多く来ているため、藤巻川公園を作る。
  - 道の駅から田切駅を結ぶ(人々の導線となる)公園の整備。
- <パチンコ屋の跡地>**
  - 公園(セントラルパーク)が欲しい。
- <田切地区>**
  - 田切には公園がない。
  - バイパスにあるアルプス大橋の高架橋下を有効活用して、スケートボードや3on3(バスケット)などができる公園を作る。
- <与田切川上流>**
  - 自然公園を設置し、ウォーキングコースを整備して欲しい。
- <柏木運動場>**
  - ナイター使用ができるような整備。

人口の規模

- 飯島町は現状のままでコンパクトシティであり、適当な人口密度である。
- 飯島町は現状の人口規模的に暮らしやすい。そのバランスを守っていくべきだと思う。
- 若い人が増えることが必要である。

農業・農地の保全

- 飯島町は田のまちである。農業をやりたい人や若い人の定住を積極的に促し、食糧自給率を110%にしたい。
- 現状農地を保全する。
- ドローンを利用した農業散布などスマート農業を行ってほしい。そのために、ドローンの空域権利を得て欲しい。

交流促進

- <柏木運動場>**
  - グラウンドは人工芝が整備されている。4地区合同の町民運動会の開催や合宿の誘致を検討する。
- <田切駅のアニメの聖地>**
  - 田切駅に「究極超人あ〜る」の記念碑があり、ファンが多く訪れている。
  - それを活用したイベントを開催する。
- <与田切公園の活用>**
  - ステージを活用した交流。
- <情報発信>**
  - 飯島町のいろいろなシステムや情報をわかりやすく伝える手段の創出。

空き家

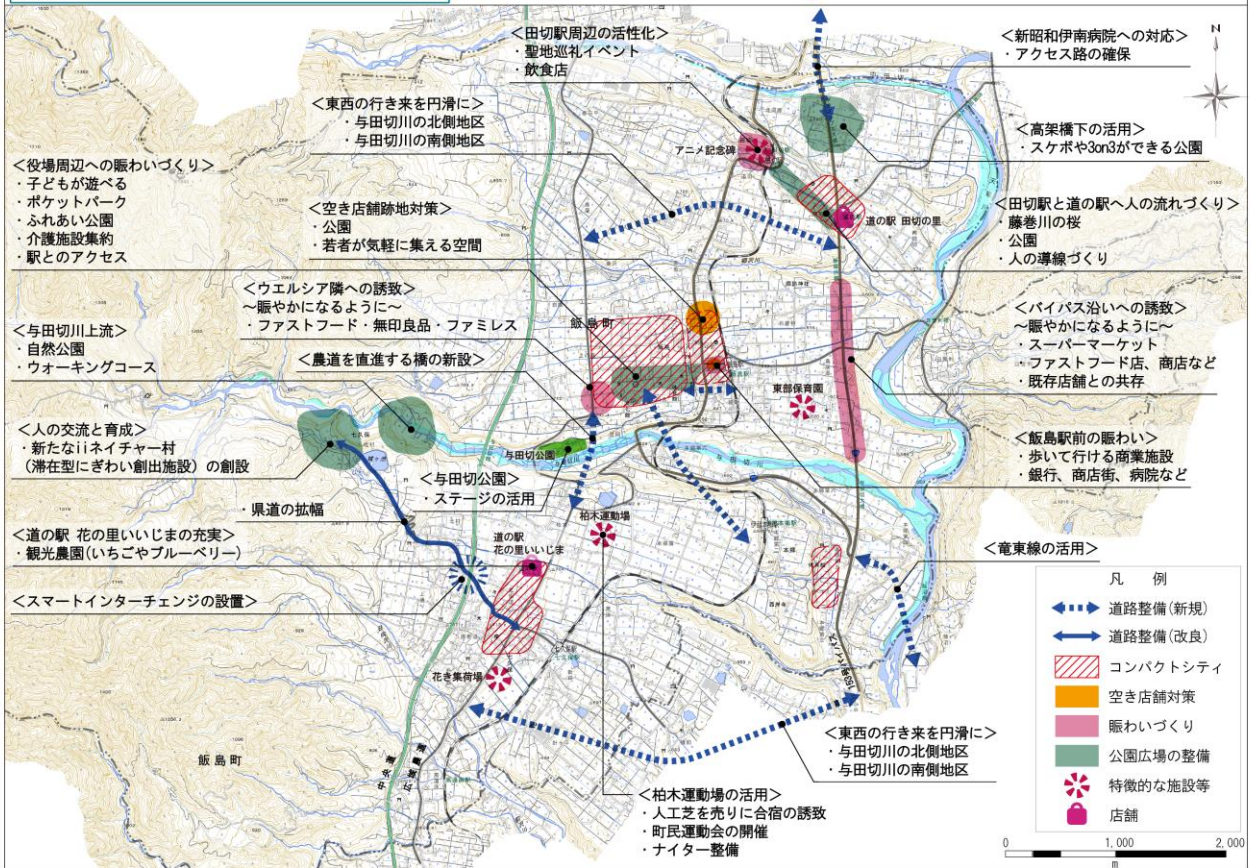
- 若者が気軽に集えるような空間づくり
- 飯島駅周辺の空地や空き家・貸店舗、空き施設を活用したテナントの募集を行う。

道路の整備

- <全体>**
  - 将来は飯島線が無くなるのでは、だから道路整備が最も必要ではないか(車の自動運転も含めて)。
- <広域農道>**
  - 現在迂回している与田切川を跨ぐ区間に直線の道路を建設してほしい。
- <東西間交通>**
  - 広域農道と国道153号バイパスをつなぐ広い道路が欲しい。(与田切川より北の地区)
  - 広域農道と国道153号バイパスをつなぐ広い道路が早急に欲しい。(与田切川より南の地区)
- <七久保地区>**
  - スマートインターチェンジを整備して欲しい。

新たに欲しい商業施設など

<b>【南信地域】</b> ✓ 大型ショッピング施設 ✓ 乗客が見込める ✓ 子供の遊べる場ができる ✓ 既存の商店への配慮が必要	<b>【飯島町】</b> ✓ 食料品の個人商店 ✓ 作業服を扱う店 ✓ ホームセンター ✓ レンタカー屋 ✓ 回転寿司 ✓ ファミレス ✓ 町が賑やかになるといい ✓ ビジネスホテル ✓ ホテル ✓ 温泉施設・温泉宿
<b>【広域農道沿い】</b> ✓ 新たに数店舗 ✓ 病院・診療所 ✓ ファストフード	<b>【国道バイパス沿い】</b> ✓ 商店街 ✓ 食品スーパー ✓ ファストフード
<b>【welcia薬局周辺】</b> ✓ ファストフード ✓ 無印良品 ✓ マクドナルド ✓ スタバ ✓ 回転寿司 ✓ ファミレス ✓ 商業施設	<b>【飯島駅】</b> ✓ 商店街 ✓ 銀行 ✓ 診療所 <b>【田切駅】</b> ✓ 飲食店



## 2-3 都市計画上の主要課題

本町における都市計画上の現状と課題を整理すると、下記のとおりとなります。

表 都市計画上の現状と課題

	現 状	課 題
人口 高齢化 地域 コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 12 (2000) 年以降、人口は一貫して減少している。</li> <li>将来推計では、特に JR 飯島駅周辺や JR 七久保駅周辺など用途地域内で人口減少が進行すると見込まれている。</li> <li>老年人口 (65 歳以上人口) 割合は増加し続けており、令和 27 (2045) 年には生産人口割合を上回ると推測されている。</li> <li>人口は JR 飯島駅周辺や JR 七久保駅周辺を中心に集積している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>飯島町人口ビジョンに示された将来展望人口の実現に向け、年少人口及び生産年齢人口の転出抑制を図る必要がある。</li> <li>用途地域内の人口減少を抑制し、生活サービスの維持に必要な適正な人口密度の確保が必要である。</li> <li>用途地域外では、人口減少や高齢化が進行する中でも、居住環境の維持や地域コミュニティの維持が図られるよう配慮する必要がある。</li> </ul>
土地利用 都市構造	<ul style="list-style-type: none"> <li>用途地域内においても農地などの自然的土地利用が一定程度存在している。</li> <li>新築建物は、JR 飯島駅・JR 七久保駅周辺のほか、国道 153 号沿道や広域農道沿道など用途地域外にも多く立地している。</li> <li>空き家・空き店舗は、用途地域内を中心に分布しており、都市のスポンジ化が進行している。</li> <li>都市施設の多くは JR 飯島駅周辺及び JR 七久保駅周辺に集積している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>用途地域内に残存する農地、低未利用地、空き家等を活用し、効率的で計画的な土地利用を進める必要がある。</li> <li>今後、広範囲に立地した都市機能の維持は困難になると予想されることから、都市の拡散を抑制し、コンパクトで持続可能なまちづくりを進める必要がある。</li> </ul>
道路 公共交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>国道 153 号や (主) 飯島飯田線の自動車交通量が特に多くなっている。</li> <li>自動車保有台数は微減しているものの、15 歳以上人口 1 人あたりの保有台数は増加傾向にある。</li> <li>用途地域内の大半は公共交通徒歩圏に含まれている。</li> <li>JR 飯田線及びいいちゃんバスの利用者数は減少傾向にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢化の進行を見据え、自動車に過度に依存しない移動環境の形成が必要である。</li> <li>安全に移動できる道路・歩道の整備を進めるとともに、公共交通の利便性向上や利用促進を図る必要がある。</li> <li>公共交通を軸とした拠点間・地域間の連携により、移動困難者を含め誰もが移動しやすい交通体系を構築する必要がある。</li> </ul>
災害	<ul style="list-style-type: none"> <li>天竜川沿岸や JR 七久保駅北部などにおいて、想定最大規模 (L2) における洪水浸水想定区域に指定されている。</li> <li>山沿いを中心に、土砂災害のおそれのある区域が町内各所に分布している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害リスクを踏まえた土地利用や居住誘導を行い、安全性の高い都市構造を形成する必要がある。</li> <li>災害ハザードエリアの住民への周知と防災意識の普及・向上が必要である。</li> </ul>
財政	<ul style="list-style-type: none"> <li>歳入に占める自主財源の割合は 35%前後で推移している。</li> <li>住民 1 人あたりの歳出は増加傾向にある。</li> <li>公共施設やインフラ施設の多くが今後更新時期を迎え、将来的な更新費用の大幅な増加が見込まれている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>限られた財源を有効に活用しながら、公共施設の適正配置や都市機能の集約を進め、都市構造の再編を通じて、維持管理コストの抑制と持続可能で健全な行政運営を図る必要がある。</li> </ul>